軍備と猜疑心

りは出來る。國家も其通りだ。然し喧嘩の道具を整備すれば、喧嘩心理が生じ、從つて其必要もないのに、喧嘩をする事にもなる。猜疑心は、軍備の原因であるが、軍備は、亦猜疑心の原因ともなる。二者互に因果を相ひ爲して、玆に世界の戰亂が起る。

封建時代には、俸祿は少なくても、大藩に仕へる事を希望するものが多かつた。大藩の方が、威張れるからだ。現在の國民も、同し樣な心理狀態を持つてゐる。强國の民と稱へて、空威張りが出來さへすれば、それがため如何に重稅を課せられても、滿足する。

千石より寧ろ八百石

昔し、某藩に殿樣御氣に入りの武士があつた。千石の祿を與へようとのお思召に對して、どうか、八百石に願ひたいと申出た。他藩人に問はれた時に千石と答へては、柔調で、力がないが、八百石と答へれば、四角張つて、えらさうに聞えるためであつたさうだ。現在生活難に苦みながら、軍縮に反對するものは、右の封建武士の同類だ。

兎に角、右等の心理狀態が、第二海軍制限會議失敗の遠因だ。言葉を飾れば、堂々たる說明も出來るが、裸體の事實は、誠に以て馬鹿げ切つたものに過ぎない。

此馬鹿げた事實は、華府會議の時にも現存してゐたが、如何にせん、米國は新舊合せて八十四萬五千噸餘り廢棄しても、尙ほ五十萬噸殘るほどの大勢力を以て、之に臨んだから、列國は、一たまりもなく、之に聽從した。ゼネヴ會議に際しては、此壓力がなかつたから失敗した。

要するに、國際交涉は、其幼稚なること、恰も子供の喧嘩の如しと云ふのが、其眞想だ。之を改善するの道は、國際心理の改善より外にはない。

四節　失敗の結果

華府會議の結果

前の華府會議に於ては、(一) 米國は日本の約二倍ほど主力艦を廢止し (二) 其結果として、四割一分七厘に過ぎなかつた所の我が噸數を六割に引上げ (三) 日本が議會の承認を經た所の新艦六隻を廢止するに對して、十三隻を廢止した。

其時米國は、既に世界第一の海軍國となつてゐたのであるから、此會議さへ開かなければ、英米間に對等論などの起らう筈がない。華府會議の際、自ら進んで、日英以上に海軍力を縮小したため、壽府會議に於ては、英米間に對等論が起り、其實行法に就て、意見の相違を來し、談判が遂に不調に歸したのだ。

國家全體の利害は、別問題となし、單に軍事上のみから見ても、日英兩國は、華府會議のために、非常の利益を得たのである。それでも尙ほ之に對して、不平を鳴らす者が多い。米國の海軍軍人中に、不平者の多いのは無理もない。米國は、他國が追隨する事の出來ないほどの優勢な海軍國となつてゐたのに、自ら好んで、英國と對等に下り、日本とは十對六の割合に下つた。海軍軍人ならずとも、多少の不滿を感ずるのは當然であらう。

米人の不平は當然

左れば米國の海軍論者は、非役海軍軍人を中心として、華府會議後盛んに擴張論を鼓吹し、上下兩院にも可なり多くの賛成者を得たが、常にクーリッヂ大統領のために、阻止せられて、擴張案を提出することが出來なかつた。大統領は、之を阻止すること三年に及び、四年目には、ゼネヴ會議を開て、此問題を解決しようと試みたが、不幸にして失敗した。

米國海擴案の勃起

全國の海軍論者は、此機會に乘じ、猛然として奮起すると同時に、クーリッヂ大統領も、多少列國――主として英國――の態度に激昂したものと見え、それまで三年餘りも阻止しつゞけた十五隻の大形巡洋艦と一隻の航空母艦の建造に賛意を表し、且つ千九百二十八年の休戰記念日の演說中に左の如き意味を演へた。

大統領遂に海擴に同意す

「外國政府は米國が優勢な艦種に對しては、其制限に同意するも、自分達の方が優勢な艦種に就ては、之を拒絕する云々」

冷靜なクーリッヂ氏すら、こんな演說をするほどだから、全國の海軍論者は、好機逸すべからずと爲し、軍部と呼應して、四十億圓の造艦費支出の計畫を立てたと噂された。海軍卿は大に原案を縮小したさうだが、それでも議會に提出した議案は、十四億八千萬圓を以て、九年間に大小合せて新艦艇凡そ七十一隻建造する事になつてゐた。下院の海軍委員會は、輿論の反對に鑑み、更に大に之を修正して、前記の十五隻案となし、既に兩院を通過し實行案となつてゐる。

十四億八千萬圓の擴張計畫

ゼネヴに於ける第二軍縮會議失敗の結果は、直ちに米國の海擴決議となつて現はれた。第三の倫敦軍縮會議が、萬一失敗に歸すれば、米國の海軍論者は得たり賢しと、重ねて擴張運動を開始し、世界第一の海軍國とならねば止まぬであらう。

英國も止むを得ず、之と競爭し、最後の一錢をも新艦製造のために費すであらう。此渦中に投じ、英米に對して、六割の比率を維持するは、經濟國難の折りから、日本としては、非常な困難であらう。況んや七割に於てをやだ。我が經濟財政に就ては、常人以上の知識ある若槻全

權は、會議の破裂を賭しても、七割說を主張せんと欲する海軍省の意見に贊同したるや否や。萬一、之が爲め會議が不調に歸し、海軍擴張の競爭を現出するが如きことあらば、我が財政經濟の前途を如何せんとする心算なるや。

第十一章　國防の標準及要素

破壞的造艦計畫

我が海軍當局者は、宣傳上手であるから、國民は、動もすれば之に乘せられて、國力不相當の資金をつぎ込む事がある。先年議會が算盤をも取らずに八八艦隊計畫に贊成したのは、其一例だ。之を海軍の計畫通りに推行すれば、政府は破產するより外に、到着點がなかつたのだ。況してや艦型が三萬五千噸より四萬噸となり、五萬噸に增加して、一隻各々一億五千萬圓もかゝるやうになれば、我が國は、到底造艦競爭を繼續してゆく事は出來ない。

華府會議は國難か國福か

幸運なことには、華府會議が開かれて、十年間主力艦の建造を中止し、且つ五―五―三の比率を維持する事になつたので、我が財政經濟の破綻は一時之を免れる事が出來たが、それでも尙ほ今日の悲境に陷づてゐる。もし華府會議がなかつたら、我が經濟財政は、どんなになつたであらう？　何人にも粗ほ想像が出來よう。最初華府會議の案內が、來た時、「國難來」と叫んだ世間多數の人々に反對して、私が、「國福來」と叫び、直ちに筆を執つて、一書を著はしたのは、畢竟、海軍制限より外に、國家を救ふ道がないと考へたからだ。決して强いて世論に反對して、憎まれ者となりたいためではなかつた。

補助艦に付ては、華府會議に於て、何等の制限も成立しなかつた爲め、我が國の如きも、其艦型を擴大し、以て多費多難の造艦競爭を開始した。

世人は、「補充」又は「現勢力維持」と云ふが如き穩便語に釣り込まれて、知らず識らず、海軍擴張を贊成し、以て軍縮の精神を沒却するに至つた。是に於て、私は長岡外史將軍と連名で、海防に關する質問書を提出し、事實の眞相を明瞭ならしむべく努めた。（昭和二年二月十七日）

今ま玆に質問書と、海軍大臣の答辯書を揭げて、所謂、補充、充實、現勢力維持、最小限度の國防力など稱するものは、何れも擴張の別名に過ぎざる事を示して置く。世人が其名に惑はされて、其實を誤らざらん事を希望するの老婆心に過ぎない。

かくて我が海軍を擴張すれば、如何なる名義を以てするに拘はらず、英米は、早晚必ず之に

對して、競爭を開始する。富力が大に劣れる日本に取つては、實に容易ならざる一大事である。決して海軍だけの問題と見るべきでない。

一節　海防に關する質問主意書

海軍費が五倍に增加し艦型が二三倍に擴大した

一、政府の所謂海軍補充と、擴張との區別如何。又、今回政府が、要求したる製艦費に由て、補充せらるべき老艦と新艦との噸數、速力、備砲等の各別比較表を示されたし。

我が國ばかりでもないが海軍當局者は、何故か擴張と謂ふ言葉が嫌ひで、新艦製造の際には、何時でも、補充又は現勢力維持と謂つて居る。かく謂ふと、同じ程度の軍艦を、同じ隻數だけ、拵へるかの如く聞えるが、實際はさうではない。補充してゐる間に、大正元年度の海軍省豫算九千五百萬圓は、大正十年の四億九千九百萬圓、則ち五倍以上になり、三四千噸の巡洋艦は、一萬噸級の巡洋戰艦となり、三萬五千噸級の戰鬪艦も出來た。此の事實に對し敢て問ふ、何故擴張の文字を使はないか。

我が國人中には、此の穩便語に由て、欺かれるものが、あるかも知れないが、對手國は、欺かれない。我が海軍力の增加に由て、濠洲「ニュージーランド」等が、脅威を感ずれば「シンガポール」の軍港築造も起り、米國の造艦論も、盛んになり、結局、製艦競爭と謂ふ無益有害の國費增加を誘致し來るのである。謂ふこと勿れ「英米が先づ競爭の端を發いた」と。それは結局水掛論だ。のみならず、どちらが先きに著手しても、競爭は矢張り競爭だ。而して製艦競爭の結果は、關係列國悉く無益有害の經費を增加するに過ぎないが、就中、最も大なる損害を被るものは、經濟力と造艦力の比較的薄弱な我が日本である。我が政府は、何故補充の名に匿れて、此の如き事態を誘起するのか。「補充と謂へば、對手國の危懼心を緩和し得べし」とでも思ふのか。兎に角政府は、何をか補充と謂ひ、何をか擴張と謂ふか、又補充に由て、更代すべき新舊軍艦に關する明細表をも附して、其說明を求む。

我が國が最も多大の損害を受ける

我が海軍力は海軍費の增加と反比例に減少する

二、政府は、製艦競爭に因て我が國防を安全ならしめ得べしと信ずる乎。

三、軍艦の隻數、噸數、速力、備砲、其他有形的設備の優劣は、結局國家の經濟力と造艦能力の優劣に由て定まるのだ。而して我が國の經濟力と、造艦力とは、不幸にして、英米二國に較べて、遠く遜色がある。然かも、尙政府が、製艦競爭に由て國防を安全ならしむるを得べしと信ずる所の論據如何。

我が國民は、可なり重稅に苦んで居るが、總歲入出は各々十七億圓强に過ぎない。英は約八十億圓、米は七十億圓、何れも我が國の四五倍である。我が國と同じ程度の努力を、海軍に用ふれば、少なくとも三四倍の有形的勢力を維持することが出來る。此の兩國を對手として、製艦競爭を爲せば、我が海軍費の增加する反比例に、我が對敵海軍力は減少し、我が國防は、危險に赴く計算になる。「英も米も、我が假想敵國ではない」と小兒だましの痴語を弄する勿れ。假想敵と謂はうと謂ふまいと、先方では、我が海軍力の增減に對して、常に安危の念を動かし、國力相當の攻防計畫を立てるのである。

世界の二大海軍國を假想敵とす

特に我が國は、東に布哇及び米本國、南に「ヒリツピン」、「グワム」及び英領諸植民地を控へて居るから、我に寸毫の野心なきも、英米二國は、常に我が海軍力の增加に對して、不安を感ぜざるを得ない、「それは誤解だ間違ひだ」と謂つても、仕方がない。先方は、本能的に之を感ずるのである。又先方が如何に辯解しても、我も亦「シンガポール」の軍港築造や、米國の海軍擴張に對しては、多少の不安を感ぜざるを得ない。斯くて我は、同時に世界の二大海軍國を假想敵とし、之に備へなければならない位地に立ち、其運命に呪はれて居る。而して英米二國の利害關係は、我に對抗する時に於て、一致し易いから、外交一度其道を誤れば、二箇の假想敵は、現實の敵國となり得べき可能性がある。其中の一箇國を相手にするだに、我に取つては容易ならぬ大敵だ。況してや、同時に、英米二箇國を敵にするが如きは、吾人の最も戒愼すべき所である。

二倍の奮發を爲しても半額の海軍費

然し、製艦競爭を推行すれば、此の形勢を馴致する懼はあるが、競爭に由て、國防を安全に爲し得べき見込は立たない。加之ならず、製艦競爭に由て、英米二國に對し、五割の海軍力を維持せんと欲すれば、少なくとも我が總歲出の三割以上を費さざるを得ない。否、之を費しても、尙五割の海軍力を維持し難い場合が起る。英米二國は、其總歲出の一割を海軍に向ければ、每年七八億圓を費す事が出來る。然るに我が總歲出は、近年大に增加しても、尙十七億圓に過ぎないから、其二割を海軍に當てても、三億四五千萬圓に過ぎない。卽ち英米に比し、二倍の奮發を爲しても、約半額の海軍費を得るに過ぎない。彼我の經濟力に、現在の如き大差ある以上は、製艦競爭をすれば、する程、我が海軍力は、英米に對して、劣弱となり、我が海防は危險に赴くこと論ずる迄もない。

然るに、我が政府が、豪も競爭を緩和するの手段を採らず、却つて之を激成すべき言行を爲すのは、本員等の解する能はざる所である。我が海軍力と、造船力とが、遙かに英米二國に劣下する限り、製艦競爭に因て、我が海防を安全ならしむる能はざることは、自明の事實ではあるまい乎。特に最も多額の經費を要する大艦巨砲主義に因て、海防の任務を全うせんと謂ふが如きは、全然不可能な空想だ。政府の所見如何。

四、之に反して、協定制限の方法に據れば、現在の如く我が總歲出の一割四分の經費を以てしても、英米に對し、約六割の海軍力を維持することが出來る。此上に更に協定制限すれば、豪も國防上我が海軍力を減少せずして、其の經費は、更に大に之を減少する事も出來る。政府は此の方法を採用するの意思なき乎。

製艦競爭に因て、我が國防を安全ならしむる能はざる事は、海軍の爲に四億九千餘萬圓の豫算を取り、我が總歲出の三割强を、之に充當した所の大正十年度の實蹟を觀察すれば、誰れにも分明にわかるだらう。海軍費だけに總歲出の三割强を充當するが如きは、何れの國家と雖も、長く之に堪ふる事は、出來ない。强いて之を繼續すれば、其の國家は、必ず破產する。我が帝國は、破產的海軍擴張を爲しても、尙米國に對して五割餘りの海軍力を作り得るに過ぎなかつた。若し競爭を繼續して行つたなら、其の五割もやがて四割に低下したであらう。

華府會議に於て、米は約八十萬噸、英は約六十萬噸、我は約四十萬噸を縮小する條約が成立したから、戰鬪艦の殘存噸數が、英米各々五十萬噸、日本三十萬噸、則ち十對六の割合となつたのだ。我は之が爲め、毎年二億四五千萬圓の海軍費を輕減し得たと同時に、海軍力に於ては米國に對して約一割を增加する事を得た。我が海軍の對敵實力を增加する爲めには、最も熱心であつた所の加藤友三郎大將が、自ら其の衝に當つて、海軍制限條約を締結したのは、全く右の事實を確認したからである。

競爭は必ず國防を危くするが、協調は其の方法次第で、却つて國防力を增加し得る事は、華府會議の實例を見ても明白である。今後の會議に於ても、亦前同の如く英米をして、我より多數の巡洋艦其の他を減縮させる事が出來れば、我が國防力は、更に幾何か增加すべし。好し、同數同量の減縮でも、國防力を減少せずして、經費を減少し得る事は、經濟力の薄弱な我が國に取つて、最も利益が多い譯になる。

「そんな弱音を吐いては、國家の體面に關はる」などと淺薄極まる言議を弄する勿れ。我が經濟力の薄弱な事は、我が國人よりも、先方の方がより能く承知してゐる。如何に虛勢を張つても、我が十七億圓の歲計と、英米の七八十億圓の歲計との間には、四五倍の相違がある。國防計畫も、有形的には、此の範圍內に於て建設しなければならぬ。故に競爭は、彼我の對抗に於ては、英米に利益で我には不利益である。然るに英米諸國に協調制限を主張するものの多いのは、天佑未だ我が國を

協定縮小の方法

去らざる證據と見るべきである。

此の機運に乘じて、列國皆均しく現在の海軍力を減縮すれば、何れの邦國も相對的勢力を減少せずして、更に各々巨億圓の海軍經費を節約し、以て之を生產資金に轉用する事が出來る。斯くして產業を奬勵すれば、連年の不景氣も、漸次之を一掃するを得べく、薄弱なる我が經濟力も、漸次之を豐富ならしむるを得べし、而して協定制限の方法は、必ずしも五、五、三の比率に拘泥する必要はない試に其一二を擧ぐれば、

1　華府會議に於て協定したる戰鬪艦に向つて、十年後を待たずして、更に三割乃至五割の削減を加ふるが如き、

2　列國均しく巡洋艦以下の現勢力だけを維持し、未製艦及び未著手艦は、總て之を全廢するが如き、

3　巡洋艦以下の現勢力に向つても、亦三割乃至五割の削減を加ふるが如き、

4　今後十年間は、列國悉く一切の軍艦製造を休止するが如き、

5　又或は一切の軍費を總歲出の二割以下に協定するが如き、

其の方法は、幾らもある。又米國の如きも、眞に軍縮の目的を達成せんことを希望するなら、巡洋艦以下に向つて五、五、三の比率を固執する必要はない筈だ。

五、華府に於ける軍縮會議以後、日、英、米、佛、伊が製造に著手し、若くは其の豫算を要求したる

艦種、噸數及び經費に關し、我が政府の調査したる結果を明細表にして示されたし。

又右五箇國の巡洋艦、驅逐艦、潛水艦、航空母艦の現在勢力をも併せて明示されたし。

六、我が政府は動もすれば、我が現在の海軍勢力は、其の最小限度なりと謂ふが如き言辭を用ふるが、其の意味如何。

所謂る最小限度の意味如何

海防は元來相對的のものなるが故、對手國の海軍力の增減に由つて、我も亦增減する必要が起る。從つて最小限度など謂ふものの有るべき筈がないではないか。

若し强て有りと謂はば、其の最小限度なるものは、對手國の動靜に由つて每年變化すべきものと思ふが如何。

七、現在の形勢が大に變化せざる限り、日本は英米二箇國に對しては、海防計畫を立てる必要があるも、他の列國に對しては、其の必要がないと思ふ。政府の所見如何。

日本は英米二國と協定すれば好い

佛、伊、露、獨、支等の列國が、他日大に海軍力を增加するならば、我が國も亦對策を施すの必要が起るだらうが、今日の所では、世界列國中、海軍を以て我が國に對抗し得べき國は、英米以外には、一つもない。故に我が國の海防は、主として英米を對象として、設備すべきものである事は、勿論だ。從つて佛伊が、海軍軍縮會議に參加すれば、太だ結構だが、假令參加せないでも、我が國の關する限り、些少の差支もない筈だ。獨り地中海其の他に於て佛伊と密接の關係多き英國だけは、多少困るだらうが、是れとても佛伊を除外し、三大海軍國だけで、協定制限する能はざる理由はない。

英國が强て困ると謂ふなら「佛伊が他日大に巡洋艦以下の補助艦を增加しさうになつたら、英國はそれに對抗し得るだけ、制限以上に補助艦を建造しても好い」と謂ふ條件を與へても差支へない。

但しさうなれば、日米も又對英關係上擴張を必要とし、從つて再び製艦競爭の起る憂ひはある。然し三國間に制限條約を締結しないのに比すれば、それでも尙ほ遙かに好い。其の理由は、第一に、佛伊は製艦競爭開始の大責任を、全部負擔する事になるから迂濶に著手せぬであらう。第二に、好し著手した所で、目下財政困難に苦しんでゐる佛伊の海軍擴張を基準としての製艦競爭は、他の三國相互間の競爭ほど、大規模になる懼れがない。其の結果として、日英米は每年數億圓の擴張費を節約する事が出來ようと思はれる。故に我が國は、佛伊の態度如何に拘はらず、協定制限に向つて勇往邁進すべきである。海軍勢力對抗上に於ては、佛伊と我が國とは交渉極めて稀薄である。然るに二國が協定會議に反對するに乘じて、我も亦其の成功を妨ぐるが如き事あらば、列國環視の間に於て、我が國際信義を汚損する事になる。政府の所見如何。

右及質問候也。

昭和二年二月十七日

尾崎行雄
外一名

二節　政府の答辯書

無意味の答辯

一、政府の所謂海軍力の補充とは、海軍力の維持保續に必要なる充足を爲すの意なり。而して補充に當りては、必しも同一の隻數又は噸數を持續するに止まらざるものあるも、右は時勢の進歩と、用兵上の要求に鑑み、之を決定すべきものにして、現に列國海軍の等しく之に準據する所なり。

擴張と云ふは、補充以外、新に海軍力を擴大するの義と解釋す。

虛僞の辭柄

今回政府の要求せる製艦費に由り、補充せらるべき舊艦と新艦との噸數、速力、備砲等の各別比較は、自然未著手新艦勢力の內容を示すこととなり、不利益と認むるを以て、之を公表するを得ず。

二、三、政府は未だ曾て製艦競爭を企圖したることなく、將來に於ても之を企圖するの意思なし。

四、世界の平和と、人類の福祉を增進する爲、公正合理なる協定制限を行ふ事に關しては、政府は、最も眞摯なる努力を以て、之に協力せんとするものなること、累次聲明せる所の如し。

五、華府會議以後日英米佛伊に於て製艦に著手し、若くは要求せるもの左表の如し（華府會議當時建造中又は建造準備中のものを含まず）

此表に據れば、三大海軍國中華府會議以後比較的に最も多く新

	日	英	米	佛	伊	記事
巡洋艦	隻 一三（一〇八、四〇〇）噸 三六九、四四三、一〇〇 圓	隻 二四（二二二、七四〇）噸 五四五、〇〇〇、〇〇〇 圓	隻 八（八〇、〇〇〇）噸 二六八、〇〇〇、〇〇〇 圓 （內既支出額 六〇〇、〇〇〇）	隻 七（六二、四五二）噸 七五五、六一〇、〇〇〇 圓	隻 二（二〇、〇〇〇）噸 不明	一、貨幣換算率一〇圓一弗 二、計畫中ニ屬シ噸數豫算等不明ナルモノハ推定ヲ加ヘタルノ

日英米佛伊五箇國の現有する巡洋艦以下各艦種の現有勢力は算出の方式に依り其の評價を異にするを以て正確なる數字を擧げ難きも既成補助艦の隻數排水量の關係を以て之を示せば左表の如し

	日	英	米	佛	伊	記事
巡洋艦	四〇（六三、一〇〇） 三三六、三八〇、四〇〇	二九（四〇、三四〇） 九五五、七〇〇、〇〇〇	三八（六四、一一〇） 一、〇八〇、六一〇、〇〇〇	一九（二二、〇〇〇） 不明		一、造艦費ハ明ナルモ其他若干ノ小艦船及建造費ハ豫算總額ニ對スル一九二七年迄ノ利子ハ含ムモノナリ 二、伊國各艦種別建造ハ不明ナルモノ 三、モノナリ
駆逐艦	三二（四六、〇三四） 二一三、〇一三、七四八	二八（四〇、六四〇） 二〇七、一〇〇、〇〇〇	四七（五〇、九二三） 九六九、〇四〇、〇〇〇	四三（四七、二五二） 二二三、五〇〇、〇〇〇	一〇（七五、〇〇〇）噸 二七七（三二九、三二四）	
潛水艦	一（八、〇〇〇） 一、四〇八、〇〇〇	二（三六、〇〇〇） 三六、〇〇〇、〇〇〇	二（六六、〇〇〇） 二〇七、六〇〇、〇〇〇	二（六六、〇〇〇） 一九六、四五〇、〇〇〇	一〇（七九、九七八）	
航空母艦						

	日	英	米	佛	伊	記事
巡洋艦（艦齡十六年以內）	三（一二六、八五五）噸	四九（二四五、一四〇）噸	隻 一〇（七五、〇〇〇）噸	隻 七（四三、七四五）噸	隻 一〇（三七、〇五八）噸	
駆逐艦（艦齡十二年以內）	八七（九一、四四五）	一七三（二〇九、四〇〇）	二七七（三二九、三二四）	三七（四五、二四一）	五六（五六、八六九）	
潛水艦（同右）	五三（四五、〇五四）	五四（四一、五八五）	一一〇（七九、九七八）	四九（三五、六一八）	四四（一八、三〇七）	

國製造に著手したものは、日本であつて最も少ないのが、米國である。

六、所謂、最小限度の海軍力とは、當時の情勢に於て、國家防衞上、必要なる最低限度の勢力たるの意なり。

七、何れの國たるを問はず、我に對抗して使用し得べき兵力に對しては、防衞計畫を必要とす。

軍備の協定制限に對する政府の態度は、第四號に對する答辯の通り。

右及答辯候也

昭和二年三月二十五日

海軍大臣　財部彪

三節　問答の結果

右の問答を見ても、軍事當局者の所謂る補充とか、最小限度とか云ふものは、何れも皆な海軍擴張の別名に過ぎない事は分明だ。又政府は製艦競爭を企圖した事はないと云ひつゝ、日夜汲々として、之を實行してゐる事は、政府が、毎年議會に提出する所の海軍參考書を見れば、明白に分る。

第五の質問に對して、政府が爲した答辯に依れば、華府會議以後日英米が建造に著手し、及び要求した巡洋艦以下の隻數及び噸量は、左の通りになる。之がため製艦費として費す所は、我が國だけでも七億圓を超過する。當時補助艦の制限が成立したなら、此金を費消する必要はなかつたのである。

華府會議に於て補助艦の制限が成立しなかつた爲の損害無慮五十四五億圓

	巡洋艦		驅逐艦		潛水艦		航空母艦	
	隻	噸	隻	噸	隻	噸	隻	噸
日	三	一〇八、四〇〇	四〇	六三、一〇〇	三	四六、〇三四	一	八、〇〇〇
英	二四	三三、七四〇	二九	四〇、三四〇	二八	四〇、六四〇	二	三六、〇〇〇
米	八	八〇、〇〇〇	〇	〇	四三	四七、二五三	二	六六、〇〇〇

上表に由つて明白なるが如く華府會議以後國力に比較して、最も多く新艦製造に著手したのは、日本であり、英國之に亞ぎ、最も少ないのが米國である。

華府會議の前には、最も多大なる海軍擴張に著手したのが米國で、全然之を休止してゐたのが英國であつた。

前に、大擴張に著手した所の米國は、華府會議に於ては、遠く日英に超過する所の縮小を斷行すべく發議した。

今度は、華府會議以後擴張した所の日英が、米國以上の縮小を發議すべき順番であつたらう。

華府會議の際、日英兩國の何れかゞ、華府會議に於ける米國の態度を執つたなら、該會議は必ず圓滿に終結したであらう。又日英兩國は、國際道德に於て、米國と同等の位地に立ち得たのであらう。

然るに日英兩國は、啻に之を爲さざるのみならず、却て米國が、軍縮の精神に從つて、造艦を休止してゐたのに乘じて、或は七割を要求し、或は對等を主張して之を失敗に導いた。さうして壽府會議の失敗は、米國の海擴黨に絶好の機會を與へた。それまでは擴張に反對してゐた米國の輿論が、俄然一變して、一時に十五萬噸の巡洋艦建造案を可決したのは、右の事情に基くのだ。

米國の海軍論者に絶好の機會を與へた

米國も、餘り大人らしくはないが、日英は之を挑發した氣味がある。而して其結果に就て、米國よりも、ヨリ多く迷惑するのは、日英であり、特に日本である。之に懲りて、將來は少しく後先を考へるやうありたいものだ。

此たび倫敦會議に臨むに方て、右等の事實が、多少の參考ともならば、失敗も亦幾分の利益を產むであらう。

華府會議で、巡洋艦以下の制限が、成立しなかつたゝめ、日英米佛だけでも、既に五十二億圓以上の製艦費を支出することになつてゐる。今度倫敦會議が、失敗に歸したら、更にどれだけの損害を、此等の國々に與へるであらう乎。ほゞ想像することが出來る。

損害既に五十二億圓を越ゆ

四節　軍備は國防の一要素に過ぎず

古昔槍や刀劍で戰爭が出來たころは、勿論の事、近年に至つても、ヨーロッパ大戰爭前までは、兵の强弱が、國の强弱であつたが、大戰爭の經驗に依れば、强弱の意味が、全然一變した。軍隊だけが、いかに澤山あり、且つ如何に强くとも、科學上の知識や、原料や、經濟力や、工業力や、一般國民の思想狀態等が、是れに伴はなければ、强國と云ふ事は、出來ない。故に軍備さへ充實すれば、國家が安全と思ふのは、舊世界の舊思想である。否な、科學知識や、工業力や、經濟力や、原料品の充實の方が、軍備の充實よりも、國家防衛のためには、更に一層必要あると謂ふ事も出來る。

强弱の意味が一變

度々繰り返すやうだが、ドイツが降參したのは、軍隊が弱かつた爲めではなく、經濟力が弱かつた爲めである。されば、今後は國防を充實しようとすれば、軍隊も必要だが、科學知識や、工業力や、經濟力等の養成は、更らに一層必要だ。此事實を眼前に見ながら、國防問題を、軍人だけの專門の如く考へるのは、非常な時代錯誤と謂はねばならぬ。ゼネヴの第二海軍縮小會議が、失敗したのは、國家全局の形勢より打算しなければならない問題に付て、餘り多く軍事

國防問題は軍人の專門に非ず

專に軍事的見地より和戰を決するは亡國の基

專門家に口をきかせたからだ。

軍人は、何時如何なる場合に於ても、戰爭をすれば、負けないだけの考案を練らねばならぬが、國家は年百年中戰爭をしてをるべきものではない。和戰の決定は、國家の全局を見渡して、政治家が下すべきものである。國務の一部に過ぎない所の軍事的見地よりして、斯の大問題を決定すれば、亡國の基を開く事が多い。

從來は國防問題は、主として軍人に決定させたから、必要もないのに、多大の經費を支出し、全國之が爲めに苦惱した。而して彼等の所謂る國防標準とか、最小限度とか、云ふものは、何れの國の事例を見ても、確たる根據のあるものではない。

五節　英國海防標準の變化

今より二十年前までは、英國の海軍は、二國標準と稱へ、單獨の力を以て、最强二ヶ國の聯合軍に當り得るだけの勢力がなければ、國家が危いと云ふ事であつた。偶ま經濟力が、略ぼ之れに伴つてゐたから、全國之れに賛同して、久しい間二國標準を守つてゐた。

二國標準より一ヶ國半標準に低下

然るに獨逸が大に經濟的勢力を增加し「獨逸の將來は海上に在り」と叫んで、盛んに海軍擴張に著手するや、英國は已むを得ず、二國標準主義を一變し、最大海軍國一ヶ國半を標準として、其海軍を整備するやうになつた。對手國が、海軍を擴張すれば、イギリスも、それ以上に擴張するのが、當然であるにも拘はらず、却て其標準を低下した。二國標準が國防上の絶對必要でなかつた事は、ここに證據立てられた。

大戰爭中には眼前の陸戰に忙殺された爲め、流石の英國も軍艦を製造する餘裕がなかつた。其間に米國は、盛んに之れを建造したから、ヴルサイユ平和會議の頃は、英國の海軍勢力は二國標準は愚か、一ヶ國半に當るだけの分量もなく、却て米國の下風に立つやうになつた。それでも尙ほ英國は上下擧つて、尙ほ世界第一の海軍勢力論を主張し、此目的の爲めには、最後の一錢まで消費すると廣言してをつた。

更に低下して英米對等

然るに其後米國の增艦計畫は、益々進歩し、優に英國を凌駕するやうになつた。是に於て、英國は更らに一歩を退き、ワシントン會議に際しては、主力艦だけは、各々五十萬噸といふ對等勢力を以て、滿足するやうになつた。ゼネヴ會議に於ても、巡洋艦以下の補助艦に付て、英

米對等を主張してゐる。

されば英國海軍の基礎は、二國標準より、一ヶ國半標準となり、更らに下つて一ヶ國に對する優勢論となり、其後更らに下つて、米國と對等を以て滿足する事になつた。卽ち英國の海軍標準は、最近二三十年間に、三度變更してゐる。所謂る國防標準なるものの當てにならない事は、凡そ此通りである。

標準が三度變更

國防の厚薄が眞に國家安危の分岐點であるならば、其海軍勢力が、比較上半減した今日は、英國は、頗る危險であるべき筈だが、實際は、さうでもない。其安全なる事は、依然として舊の如しと云つてよい。從つて國家の安危は、國防の厚薄に依つて別れるものの如く想像したのは、全く無根據の妄想であつた事が知れる。

六　節英米對等の實質

殊に今日英國が米國と對等の海軍力を以て、滿足するに至つては、軍人眼を以て見れば、それでもよいかも知れないが、苟も大局を達觀するの眼識を持つてゐるものから見れば、可笑しな遣り方だ。國民の虛榮心は、それで滿足が出來るかも知れないが、實際に於ては、英は米に對抗する事が出來なくなるのである。米國は其地域が廣大であつて、南北兩米洲中の要地を占領し、且つ天產物は極めて豐富にして、人力も之れに伴つてゐる。故に、如何なる場合に於ても、自給自足を以て、生存する事が出來るが、英國はさうは行かない。其本國は、狹小であつて、屬領は、全世界に散在してゐる。一朝食糧の供給が絕えれば、本國人民は、餓死するより外に途がない。

虛榮心の滿足に過ぎない

故に海軍勢力の對等は、たゞ英人の虛榮心と、軍人の半面的打算を滿足せしむるだけであつて、開戰の場合に於ては、米國と對等の位置に立つ事は出來ない。政治家的眼光を以て觀察すれば、對等論を主張して、艦種砲型等を兎や角論ずるが如きは、軍事專門家の閑事業たるに過ぎない。それ等の枝葉末節に付て、如何に對等の形式を整へても、一朝開戰に至れば、米國は、一擧してカナダを掠奪する事が出來るが、英國は之に對して報復する事は出來ない。

開戰の場合は米國と對等の位地に立つことは出來ない

且つ對等の海軍力では、米國も英本國を冒かす事が出來ないと同時に、英國も亦大西洋を越えて米國を劫かす事は出來ない。而して英國の屬領は、世界各地に散在してゐるから、米國

兵力の對等は國防力の對等に非ず

は隙を窺つて其何れかを進擊する事も出來ようが、英國の方から、侵略し得る米領は少なからう。かたゞ〳〵以て英米對等は、たゞ形式上の對等であつて、事實の對等ではない。一朝開戰の場合は、英國は、米國の側にも寄る事の出來ない劣勢に陷るのだ。武力の對等は國防力の、對等ではない。武力は、今日では、國防力の一分派に過ぎない。

關係最も險惡なりしころは我が海軍力は米の四割餘に過ぎなかつた

政治家的見地よりすれば、かくの如き事は、大局の打算上分明に分るが、軍人には、其感覺が薄いやうだ。それは兎に角、軍部が海防標準などと稱するものは、實際に於ては、殆ど標準とすべき價値のないものである事は、英國の事例に就いても、證明する事が出來る。

又日米の關係を見ても、所謂る標準なるもののあてにならない事が分る。日米の關係が、最も險惡であつたのは、近年に於ては、歐洲大戰以後であるが、其頃の我が海軍は、米の四割前後に過ぎなかつた。それでも我が國は少しも危險狀態に陷らなかつた。又海軍力が弱い爲めに、談判交渉の上に、不便を感じた證據もない。ワシントン會議後は、主力艦は、大に增して六割となつたが、四割の時に較べて、我が國が特別に安全になつたとも思はれない。

他日補助艦を七割に增加する事が出來ても、たゞそれが爲めに多大の經費を消耗し、今日では、國防の最大要具となつてをる經濟力の缺損を招くに過ぎない。之を要するに、軍事當局者の所謂る國防標準なるものは、世界何れの國の事例に徵しても、別段根據のあるものではない。

人類は訓育次第で如何にもなる

第十二章　國際心理の改善

世の中に、人間ほど、其環境と訓育に因て、早く變化するものはなからう。

現在の國際關係は、頗る險惡だが、それは列國競つて險惡になるやうに、其人民を敎育訓練するからだ。

反對の訓育を施せば、國際關係は、必ず大に良好に赴く。恰も國內戰爭が、大に減少し、幾んど絕滅せんとするに至つたと同じ手續に因て、國際的戰爭も、必ず大に減少し、遂に絕滅するに至るべき筈だ。勝敗共に有害な戰爭を、永く將來に繼續するには、絕大の無思慮と無計算を要する。そんな馬鹿げた事は、將來の人間には出來さうもない。

一節　門外皆敵より藩外皆敵まで

蒙昧未開の野蠻時代には、無智の恐怖心、利慾心、嫉妬心等が、原因となつて、互に殺傷掠奪し合つた。故に門外みな敵と敎へたが、それが追々進歩して、村外みな敵と敎へるやうになり、更に進歩すれば、郡外みな敵と敎へ、遂に藩外みな敵と敎へるやうになつた。

敵が追々少くなる

これが世に謂ふ所の封建時代であつて、我が國では、此時代が鎌倉以後、明治の初年まで繼續した。小さな日本に三百餘りの諸侯を立て、その諸侯が、各々生殺與奪の全權を握つて、其領地に君臨したのである。

三百餘りの半獨立國

千八百六十七年のパリー大博覽會には、薩摩藩の如きは、獨立國の資格を以て、別に一區域を要求して、別種の國旗を建てたほどの見識であつた。尤もそれは琉球國王と云ふ理由に據つたものださうだ。

三百諸侯は、各々軍備を整へて、隣藩と對抗し將軍一たび統制力を失へば、直ちに、近隣を併呑せんと欲して、虎視耽々たる狀態であつた。勢ひ藩外みな敵と敎へざるを得ない。

かく敎育訓練した結果として、同じ日本人でありながら、他藩人を見る事、仇敵の如く、互に相ひ猜疑警戒すること、現在の吾々が、外國人に對するよりも、尙ほ太だしかつたのだ。

然るに、王政古に復して、諸侯がなくなれば、元來同一民族であるから、敵視狀態は、忽ち一變して、仲よく暮すやうになつた。

それでも德川時代の二百五十年間に、領外みな敵と敎へられた習癖は、今ま尙ほ存續して、隣村隣郡を敵視するものが、可なり多い。地方には、合併して、新町村を組織すれば、非常に便益ある場合に、不便不利を忍んで、數百步の中に二個の役場を對立させてゐる所が多い。それは、大抵封建時代に領主が異つてゐた爲めである。

德川時代の習癖尙ほ未だ止まず

東京附近に香魚の澤山取れる川がある。川口の住民は、禁令を犯して、丁斑魚より小さいころ、盛んに之を掬ひ取る。僅か二三ヶ月待てば、十倍百倍の價値を生ずるのを、惜しい事だと考へて、私は度々忠告した。村民は冷笑した。曰く「其ころは川上の村に往つて了ふ」と。彼等に取つては、隣村是れ敵國である。彼等は、村民とはなつたが、まだ縣民とはならないのだ。況んや國民をやだ。

村民有て縣民なし

封建心理の然らしむる所、我が國には、村民、町民、市民、縣民は、あるが、國民は少ない。名だけは國民だが、其心を持つてるものは少ない。

國民は尙ほ少ない

地方税から補助さへ貰へば、町村人民は事業の得失を問はず、之を歡迎する。彼等は、町村を愛する事を知つて、未だ府縣を愛する事を知らないのだ。則ち未だ府縣民となつてゐないのだ。

國庫補助と聞けば、府縣民は、事業の是非を問はず、雀躍する。彼等は府縣を愛する事を知つて、未だ國を愛する事を知らないのだ。則ち彼等は、漸く府縣民とはなつたが、未だ國民となり得ないのである。

無理はない、今から六十年前までは、全國人民は、各々封建君主に事へ、其爪牙となつて、同胞互に戰鬪準備に沒頭してゐたのである。

敵對思想の變化

二節　藩外皆敵より國外皆敵まで

國民心理は、勿論の事、縣民心理すら、未だ備具せざる人々に向て、國際心理を說くのは、餘り突飛なやうだが、之を說かなければ、軍備問題を正當に理解させる事は出來ない。いざ少しく之を說て見よう。

文化の進歩につれて、人の敵對思想は、段々減少すると同時に、其範圍が擴大する。初は隣人を敵とし、次には隣村、次には隣郡、隣藩、遂に隣國を敵とするに至て、玆に國際爭鬪が生ずる。

個人の徑路は國民の徑路

個人的敵對觀念が、次第に稀薄に赴き、遂に消滅した徑路を見れば、國際的敵對觀念も、早晩向上進化して、遂に消滅に歸すべきものである事が分らう。個人が踐行した徑路は、其集合體たる國民も、やがて必ず踏襲する筈のものである。

他動と自動と二樣の原因

古昔の先祖が、門外皆敵と考へた如く、現在の國民が、國外皆敵と考へてゐるに就ては、內外二樣の原因がある。一は他の國民が侵掠的暴行を逞うするためであり、一は外來の事實を誇張して防衛心を養成させるためである。列國中には、往時は單に防衛に止めず、自ら侵掠的訓育を施すものもあつた。

外來の原因は、近來大に減少し、世界戰爭以後は、幾んと消滅したが、防衛的訓育は、列國とも今尙ほ盛んに之を施してゐる。所謂る國民教育なるものは、弱肉强食時代の事實を布衍して、之を施すから、舊態依然自ら國外皆敵主義に歸着せざるを得ない。

獨り國民教育のみならず、歷史も、歌謠も、繪畫彫刻も、稗史小說も、凡そ世人の耳目に觸

爭鬪氣分の養成

れるものは、大抵みな爭奪時代の事實に基き、而も之を誇張したものに非ざるはない。此教育訓練を施せば、列國人民は、知らず識らず、爭鬪的氣習を生ずる。換言すれば、外來の原因は、幾んど消滅したが、自ら養成する所の原因が、今尙ほ存在するがため、列國皆な懊惱するのである。自ら畫いた幽靈を見て卒倒するも同樣なわけだ。

自ら畫ける幽靈を見て卒倒

更に換言すれば、到國みな時代錯誤の教育訓練を施し、其跡始末に苦んでゐるのである。自ら播種して、其實の成熟に苦しむ。思へば馬鹿々々しい次第ではある。

藩外皆敵と敎へれば、同胞互に殺傷掠奪し、國外皆敵と敎へれば、列國對峙の形勢が生ずる。それも其事實があるなら、仕方がないが、現在は其事實もないのに、昔時の訓育を施してゐる。

三節　歷史の訂正教科書の改革

中小學の教科書中には、現在の時勢に適應しないものが多い。歷史に至つては、特別に訂正を要する。

舞文曲筆の歷史

從來の歷史中には、爲めにする所あつて文を舞はし、筆を曲げたものが多い。それを書いた當時は、別に惡意がなくとも、其後の事實に徵して見れば、誤謬の明白なるものもある。對內的にもあるが、對外的には尙更ら多い。

逆賊の子孫が忽ち朝廷の姻戚となる

我が王政復古史には、何れも會津藩主松平氏を逆賊と書いてあるが、其子孫は、現在陛下の親任官となり、親王殿下の妃ともなつてをられる。逆賊の子孫が忽ちにして、皇族に列しては、聊か變にも感ずるが、元來、之を逆賊にしたのが過誤であらう。會藩は、只薩長に反抗しただけで、特に皇室に背叛したわけではあるまい。偶ま薩長が、天皇陛下を奉戴してゐたため、之を奉戴し得なかつた會津藩は、逆賊の形ちになつたに過ぎないのだらう。

何れの國の歷史も、常に勝者に媚びて、敗者を事實以上に惡しざまに書いてある。是等も、天下後世のため、事實に基いて訂正すべきであらう。

特に外國關係の歷史は、何れの國に於ても、餘ほど事實に相違した書方をしてゐる。例へば米國獨立の顚末でも、英國の歷史は、米國のみが惡るいやうに書き、米國の歷史は、英國のみが惡るいやうに書く。もし公平に書いたなら、英米人の感情は、兒童の時から餘ほど緩和されて發達するであらう。

列國の歴史何れも無理が多い

これは獨り英米の關係ばかりではない。普佛でも、英露でも、日露でも、國際關係の歴史は雙方共に毒筆を揮ひ、事實を矯飾して、憎惡の念を起させるやうに書いてゐる。

純情玉の如き小學兒童に、僞虚の歴史を敎へて、互に國際爭鬪の種子蒔きをしてゐる。これでは國際心理が改善されよう筈がない。

國外皆敵思想の間違つてゐる事は、門外皆敵思想の間違つてゐたのと同一である。只さう敎へるから、さう思ふだけの事だ。又さう思ふから、必要もないのに、海陸の軍備を整へ、無益の戰爭も起るのだ。

門外皆敵の代りに門外皆友

古昔「門外皆敵」と敎へた事の代りに、現在の如く「門外皆友」と敎へれば、見ず知らずの同胞も、帶刀に手をかけて、互に警戒する事の代りに、臂を執つて、交遊親睦する事が出來る。

國外皆敵の代りに國外皆友

國際關係に就ても、「國外皆敵」と敎へる代りに、「四海同胞、國外皆友」へ敎へれば、國際心理は、次第に改善され、猜疑、嫉妬、誤解、衝突の分量は、大に減少し、從つて對外的軍備の必要も、減少し、又從つて戰爭の機會も、減少する。これほど世界人類の幸福に貢獻する所業は少なからう。

四節　新聞の感化力

國民敎育を改善する事の次には、新聞記者と宗敎家に依賴する事が、最も有效であらう。今日の如く、新聞の讀者が增加し、而も其記事論說が、讀者の腦髓を支配する世の中に於ては、新聞の書き方次第で、國民の思想は、善惡何れにも變化する。

殊に我が國人は、印刷物に對して、格外の信用を措く習癖がある。古來廣く四書五經などを讀ませ、書中の一句一言、悉く聖賢の敎へとして、絶對信向を要求した爲めでもあらうか、我が國人は、印刷物に對しては、殆ど迷信的信仰を有つてゐる。當人が直接に話しても、信用しない事柄でも、是れを新聞紙に載せて、讀ませれば、一議に及ばず確信する人が多い。不思議なやうだが、事實だ。

印刷に對する迷信

かう云ふ人々が、何百萬人も朝夕、二回づゝ新聞紙を讀むのだから、否な、新聞に讀まれるのだから、其紙上に表はれる記事論說は、善惡に拘はらず、全國人民の精神狀態に偉大なる影響を與へる。

新聞紙の論調は社會の水平線以下に下り易い

然るに、新聞も、亦一種の營業に相違ないから、多數の讀者に氣に入る爲めには、記者自身の見識を下げても、時俗に媚る必要がある。さうしなければ、營業上の成功を贏ち得ないのだ。其結果、新聞の記事論說は、動もすれば其社會の水平線以下に下り易いものである。調子の低い新聞の爲めに、輿論や感情を製造せられるのだからたまらない。油斷をすると、國際心理は、非常に低下し、激昂して、謂はれなく、險惡に赴くことが多い。而して民衆政治の世に在ては、多數の愚人が、常に少數の智者賢人を壓倒するのである。

茲に於て、世界人類の爲めに、無益な戰爭を減少しようとすれば、新聞記者に向つて、特別の注意を求め、出來るだけ國際的嫉妬、猜疑、憤懣等の惡感情を煽動しないやうに努めて貰はねばならぬ。之れは隨分難かしい事ではあるが、世界人類の爲めと思へば、新聞記者諸君も、特別の注意を拂ふ價値があるだらう。

五節　宗教家に御相談

同々教の如く、劍を揮ふ事を以て、教義の一と心得てるものは、格別だが、他の宗教は、何れ

高僧達までが天帝に叛いて人間に仕へる

も慈悲博愛を旨としてゐる。故に宗教家は、其本分として爭鬪に反對すべき心理狀態を作るために努力しなければならない筈だ。殊に耶蘇教徒の如く、絕對無二の天帝に仕へる者は、此方面に向つては、一層努力しなければならないわけだ。平常は其通りに努力してをるやうだが、一朝戰爭が起ると、高僧達までも天帝に叛いて、地上の皇帝、若くは民衆に仕へ、其爪牙となつて、殺人强盜を煽動奬勵する。實に愕き入つたる事態と謂はねばならぬ。

現に先般の世界戰爭に際しても、列國の宗教家は、各々其國の勝利を祈つた。其祈禱を聽いた絕對無二の神樣は、定めて當惑せられたであらう。雙方共に無理があるから、平和の間に解決し得べき問題も、之れを干戈に愬へるやうになつたのだ。然るに「たとへ無理でも、自分の無理をば、是非通して貰ひたい、勝たせて貰ひたい」と祈られては、神樣も途方にくれるだらう。無論の事、どちらにも最眞は出來ぬ筈だ。然るに立派な宗教家が、斯の分明なる事理を無視して、各々自國の勝利を熱禱した。實に抱腹絕倒の至りである。

國境は人間が勝手に製造したものに過ぎない

元來、國境なるものは、人間が勝手に製造したもので、天命に依つて出來たものではない。然るに國境を超越して働くべき宗教家が、人間手製の國境に束縛せられて、神樣迄も國境内の私用に

供せんと欲し、之に無理難題を申込むに至つては其本分に背くも亦太だしと云はねばなるまい。

殊に古來の戰爭中には、政治家の權謀術數や私利私慾の爲めに、開かれたものが多い。先般の大戰爭でも、詮じ來れば、軍人や政治家の野人が、其根本となつてゐるのだ。然るに宗教家ともあらうものが、彼等山師輩の手先きになつてた、死後天帝に見える面目がない筈だ。

先年米國有名な神學博士フォスヂック氏が、來朝した時、私は此問題を以て博士と語つた處、流石に一世の名士だけあつて、博士は言下に答へた。

フォスヂック博士の宗教家の本分に關する意見

「吾々宗教家は、實に非常な過ちを冒しました。戰爭は、結局宗教と兩立すべきものではない。故に吾々同志は、將來は如何なる戰爭に對しても、加擔しない事に決心した。如何なる精神的及び肉體的苦痛を忍んでも、戰爭には反對する事に決心しました云々」

まことに左もあるべき事だ。天帝が重いか、國家が重いかの問題を考へれば、苟も宗教家たるものは無論さうあるべき筈だ。

宗教家が、各々其本心に立歸へり、人間に仕へずして、神佛に仕へるやうになれば、國際心理は、大に改善せられるであらう。

人類は皆な同樣に土地、日光、空氣等を享用すべきもの●

神佛の目から見れば、人類が狹い世界の裡に、數百の國境を設けて、互に相ひ排擊呑噬するが如きは、無論好ましからぬ擧動であるに相違ない。是れは蒙昧未開の人類が、未だ神佛の本意を諒解しない間に、爲すべき進化途上の一現象に過ぎないのだらう。やがては全世界が一家となつて仲よく暮らすやうになるのだらう。さうしてそれが神佛の本意であり又人類の幸福であらう。

されば宗教家たるものは、土地も亦日光空氣などと同じく、人類共同の所有物であつて、一部の國民が、區劃を限つて、之を專有獨占すべき物でないといふ大義を明かにすべく努めなければならぬ筈だ。換言すれば宗教家は、國境を閉鎖する事の代りに、之を開放し、全世界の土地物產は、全世界人類の爲めに、使用せしむるやうに努めなければならぬ筈だ。

宗教家の努力に依て、世界の土地が、日光や、空氣や、蒼空や、大洋と同じく、世界人類の爲に開放されるやうになれば、戰爭の原因は、幾んど絕滅するだらう。國境を閉鎖して、其物產を專有獨占するから、此無理が、原因となつて、戰爭が起るのだ。

もし將來何等かの方法に依て、日光や空氣を專有獨占するやうになつたら、戰爭は尙ほ頻繁に赴くだらう。土地と、海洋と、蒼空は、元來日光、月光、空氣等と共に、人類全體に向つて、

今日の宗教家も古昔の侵略的宗教家と異形同質

解放すべきものである。止むなくんば、國境は設けても善いが、閉鎖すべきものではない。

古昔ローマ舊教徒が、十字架を眞先きに推し立てて、侵略的國家の先驅を爲した如きは、宗教家の本分を去ること、極めて遠い振舞だ。併し形は變るが、今日の宗教家も、略ほ同樣の擧動を爲して居る。どうか一日も早く是等の過ちを改め、宗教家は、宗教家らしく言動するやうにありたいものだ。さうなれば國際心理は、其處で大に改善せられるに違ひない。

六節　排外思想と愛國心

排外思想は眞誠の愛國心に非ず

排外思想も、亦一種の愛國心には相違ないが、其最も偏狹幼稚なものである。偏狹幼稚な愛國心は、却て國家の禍害を生ずる事が多い。恰も偏狹なる自愛心は、却て自己の損害を招くと同じやうなものだ。

眞に自己を愛するものは、他人をも愛せねばならぬ。眞に自國を愛するものは、他國と調和しなければならぬ。我より他國を排斥すれば、他國も亦、我を排斥する。彼我互に相ひ排斥すれば、雙方共に損害を招くだけのことで、利益を受ける事は出來ない。たとへ出來ても、利益の分量が少なくなる。而して國家の利益を減殺するのは、眞誠の愛國心ではない。

排外思想は攘夷思想の別名

排外思想と攘夷思想とは、異名同質と云つても好いほどの者ではあるが、我が國人は、支那人から、歐米人を呼ぶに夷狄禽獸を以てする惡罵法を敎へられ、其稱呼及び思想が、一時全國を風靡した。藤田東湖などが、「寶刀賞らず洋夷の血、空しく臥す常陽の舊草廬」と歌つて煽動すれば、全國血氣の徒は、忽ち劍を案して蹶起する狀態であつた。

攘夷思想の延長

攘夷思想となつて現はれた無智の愛國心は、各地の外人殺傷事件となり、外船の砲擊となり公使館の燒打となり、之が爲め國家の禍害を釀生したこと、一と通りではない。

現在我が國人の有する愛國心は、攘夷思想の延長であつて、未だ眞誠の愛國心に進化してゐない。故に其所謂る愛國心なるものは、動もすれば國家の禍害を生ずること、昔時の攘夷思想と異なる所がない。畢竟純正なる國民意識が、未だ發達してゐないからだ。

國家は常に犧牲に供せられる

我が國人の大多數は、常に地方のためには、國家を犧牲に供し、政黨のためには、國家を犧牲に供してゐる。地方人が、收支の償はない鐵道敷設を要求するが如き、農民が、米穀買上を要求するが如き、政黨內閣が其黨のために地方官を更替するが如き、又黨利黨益の爲めには、國是

國民的意識の缺乏

を變改するが如き、陸海軍人が、其必要もないのに、多大の經費を要求するが如き、前後左右往く所として、其例證を見ざるはない。我が國人は、未だ國民的意識を所有せざる證據である。

國家を意識しない愛國心は排外心

臨時に愛國心が出る

既に國民的意識がなく、市町村、民又は、郡府縣民とはなつたが、未だ國民とはなつて居らざる以上は、眞誠の愛國が出やう筈がない。愛府縣心、愛町村心は、あつても、愛國心はない。有るのは、愛國心の卵子とも云ふべき似て非なる排外心攘夷心に過ぎない。これが孵化發達して、愛國心となる前に、先づ國家を意識し、國民心理を發生しなければならぬ。國家を意識せざる愛國心は、排外心であつて、眞誠の愛國心ではない。

我が國人も、外國が日本に向て敵對行爲に出る時だけは、分明に國家を意識する。從つて臨時に愛國心が發生して、人々皆な生命を捨てても國家のために貢獻せんと考へるやうになる。

戰爭の時だけ擧國一致

然し、それは外國と戰爭中だけの事であつて、戰爭が止めば、人々皆な國家を、自己の食餌に供する心を起す。政黨員は、政黨のために、賄賂を取り、投票を買收し、國帑を濫費する。政黨以外の人も、亦皆な然らざるはない。

對外戰爭の時だけは擧國一致して之に當るが、一朝戰爭が止めば、忽ち四分五裂して、政治家は互に毀傷して國家の名聲を害し、商人は互に其販路を妨碍して商權の發達を害し、製造工業者は粗製濫造以て國家の信用を害する。其爲す所一として愛國心の缺乏を示さざるものはない。

七節　愛國心と國際心理

文化の進歩に因て、世界は狹くなるばかりである。私は少年のころ、佛人の著はした「八十日世界一週」と云ふ小說を讀んで、世界が小さくなつたのに驚いた事がある。然るに先きごろ獨逸の飛行船は、廿一日あまりで世界を一週した。私の少年時代に比べると、世界は既に四分の一に縮小した。

かく世界が縮小して、交通往來が頻繁になり、物資の賣買交換が、多大になれば、國際の利害は、愈々錯綜密着して、共通性を帶びて來る。此時期に於ては、愛國心も、古昔と違つて、國際心理と和合融會しなければならぬ。もしさうなる事が出來ず、偏狹孤立的色彩が、濃厚に過れば、愛國心は、却て國を害し、民を傷ふ結果を生ずる。恰も個人の場合に於ける頑固我儘なる自愛心と異なる所はない。

排外的愛國心は寧ろ有害

排外的愛國心や、國家主義は、現在でも既に國家のために有害の働きを爲してゐるが、將來は益々さうなるに違ひない。物資の豐富な大國は、禍害を受けながらも、どうかかうか、生存する事も出來ようが、天産少なくして、人口の多い我が日本の如き小國は、排外的愛國心が強くなれば、自滅するより外はない。

偏狹なる國家主義を鼓吹して、國際心理の發達改善を妨碍するものは、堅く口を鎖して安全を妄想する榮螺も同樣だ。やがて枯魚の市に、自分を見出すであらう。

日本の活路

我が國は、是非とも物資、特に原料の供給を他國に仰ぎ、工業國として生存する外に、活きる道はないが、我より排外的思想を鼓吹すれば、他國も亦之に應戰し、物資も得難く、過剩人口のはけ口は、益々閉鎖されるわけになる。

榮螺的軍備

國際心理の改善、門戸開放、愛他的愛國心の養成は、我が國に取ては、他國以上に必要がある。然るに、此特殊事情をも顧みず、妄りに排外的國家主義を鼓吹して、自ら其活路を塞ぎ、且つ世界の進運を妨碍するに至ては、思はざるの太だしきものである。

軍備を擴張すれば、するほど我が國は榮螺的になる。如かず一方に於ては、大に軍備を縮小し、門戸を開放し、國際心理を改善して、「國外皆敵思想」を一變して、「國外皆友思想」となさんには。日本の活路は、只此に在り、日本の繁榮は、只此路に由つて獲得する事が出來る。

八節　國境觀念の變化

開門撤廢の國內的變化はやがて國際的にも來る

封建時代に於ては、日本各地の天險には、關門を設けて、益々交通を不便にしたが、今日は之を撤廢して、トンネルを開通した。

此國內的變化は、現在國際的にも進行しつゝある。列國間の國境には、要塞を築き、砲臺を設け、天然と人工と相ひ待つて、益々之を險阻ならしめること恰も國內に於て、關門を設けたのと同樣であつた。其上に尙ほ言語、風俗、習慣、貨幣、度量衡等を異にし、以て人の心中に、國境を作るべく努力した。太だしきに至ては、ビスマークの如きは、あの不便な鬚文字までも奬勵して、國境觀念を强める道具に使つた。これは天險を益々險阻ならしむべく努めた我が封建時代と同じやうな遣り方だ。

然し、文化の進歩は、他面に於て、右と正反對の方針に向ひ、列國間の殊異を減少すべき形

勢を生じた。其結果として、汽車は國境を突破して布設され、度量衡は、漸次共通になり、我が國の如きも、既にメートル法を採用した。

國境の廢滅

言語もエスペラント語の如き世界語を生ずると同時に、英語の通用區域は、益々擴大し、將に世界語とならんとする形勢を示してゐる。

風俗習慣も、世界の縮小するに從て、次第に其差別を減少しつゝある。此上、もし貨幣を共通する事にでもなれば、列國人民の國境觀念は、益々減小し、國際心理は、大に改善されるであらう。

經濟は既に國境を超越

特に飛行機の流行につれて、國境突破——無視と云つても好い——の思想は、長足の進歩をなし、人間の國境觀念は、大に減小した。

又經濟組織は、既に國境を超越して、世界的となり、倫敦紐育の經濟的事變は、其日の中に、東京に影響する。其結果、經濟的には、世界は既に一國となつたかの如き狀勢を生じた。

戰爭が、勝敗共に、交戰國に、不利益を與へるやうになつたのは、之が爲めである。

かくて、世界が縮小し、列國間に共通の事態が增加すると共に、從來の國家は、餘り狹小すぎるやうになつた。交通が不便で、經濟組織が、尙ほ幼稚であつたころは、英、佛、獨、墺、伊の如きものでも、大國中に加算されてゐたが、今日となつては、既に窮屈を感ずるや。況んやそれ以下の小國をや。

歐羅巴聯邦

是に於て、多年學者思想家の間に唱へられてゐた「歐洲聯邦」の議論は、ブリアンの如き十二回も首相の椅子に倚つた實際政治家の口に上るやうになつた。「政治的聯邦」は、容易に組織されずとも、「歐洲經濟的聯邦」は、遠からず實現するだらう。

英帝國は一種の聯邦

英國の如きは、既に自治領植民地に獨立權を與へ、之を聯合して、一種の聯邦を組織してゐる。英米の二大聯邦に對して、他の列國も、何とかせずばなるまい。個々分立してゐては、經濟的に對抗する事が出來ない。

此點から見ても現在の國境は、益々稀薄に赴くべき形勢となつてゐる事が分る。此時に方て、國際主義と兩立し難い偏狹なる國家主義を高潮し、攘夷的愛國心を鼓吹するが如きは、活んと欲して、自ら死地に陷るものである。

日本にも、今年は三種の國際會議が開かれた。此他郵便同盟、赤十字聯合會、萬國醫學會、列

國家の安危盛衰の分岐點

國議員會等、國境を超越した國際會議は、幾十あるか知れない。是れ皆な世界の風潮を示す所の風見である。此風潮に棹すものは榮え、之に逆行するものは衰へる。國家安危盛衰の岐れる所、實に此に在り。讀者が三たび其意を致されん事を望む。

九節　國際道德と個人道德

國際的には没道德

今の時代に於ては、個人としては、道義觀念に富んだ立派な人物も、國際問題に就ては、是非曲直を問はず、たゞ利害得失のみを見る癖がある。個人としては、正直な人物も、國家の爲には、如何なる虚僞の言行も、之を憚らないやうな振舞をする。

例へば先年米國政府から、華府會議の案内を受けた時の如きも、我が政府は、軍備制限は、彼等の宿望であり、米國の之を發議して呉れたのは、最も彼等の心を得た擧動であると云はん許りの虚言を並べ、僅か半年以前に、其與黨全部を率ゐて、衆議院に於て軍備制限案に反對した事實を埋没せんとして居る。

又曾ては屢々朝鮮の獨立を聲明しながら、――日清戰爭も、日露戰爭も、みな朝鮮獨立の爲であると明言しながら、――突然之を合併したるが如き、前後矛盾の言行も、我が同胞は、恬然として之を怪しまず、却て巧妙な外交術であるかの如く考へて居る。是れ皆な文化の幼稚なる結果であつて、吾人は此の如き矛盾、衝突、虚僞を平氣で見て居つても、一層進歩した文明國人は、之に對して非常の惡感を起すのである。我國は、其度毎に世界識者の不信用を招き、常に虚僞譎詐を事とし、毫も誠心誠意なき未開國として、輕蔑せられるやうに爲る。

虚僞の言行は常に國家の不利を招く

現在の我が同胞は、個人の良心は、何時でも、國家の爲に犧牲に供すべきものと信じてゐるものと見え、國家の前には、正邪善惡の觀念あることを許さない。我が同胞中には、苟も國家の爲したる仕事は、如何なる惡事と雖も、悉く辯護しなければならないものの如く考へて居るものが多い。其結果として、我國に對する非難攻擊は、事實の有無に拘はらず、悉く之を反駁否定すべからざる事實すらも、尙ほ外國人の誤解と稱へて、之を否定する。斯くて我が同胞は、世界列國より、正邪善惡の觀念なき無良心の徒と認めらるるやうになる。國家のため、民族のため、實以て遺憾至極な次第である。

併し、是は我が國人に限つた事ではなく、他國人にもある缺點だが、同胞中に特に分量が多いやうだ。而して其基く所は、支那傳來の教義に在るのだらう。孔子は「子は父の爲に匿し、父は子の爲に匿す、直きこと其中に在り」と敎へた。又古代の支那人は、何れも國惡を言はざるを以て、人間の美德と說いた。卽ち父兄や國家のためには、虛僞を奬勵したのである。斯の如き支那流の敎育が深く我が同胞の腦中に浸み込み、國家の惡事過失は、國內に於ては、之を非難攻擊しても、外國に對しては、之を隱蔽辯護し、同一の事柄に就ても、對手の內外に依つて、正反對の言行を爲し、以て己れを欺き、人を欺くのを、正當と考へてゐる。

虛僞の奬勵

事實の隱蔽及び曲庇は國害を招ぐ

勿論、民族各々國を立てて互に對峙する以上は、時と場合に依り、國惡を匿すの必要も起るが、さりとて到底隱し切れない事柄までも、之を改めんとはせず、只管隱蔽辯護するに至つては、偶々以て國家人民の損害とこそなれ、決して其利益とはならない。此の如き愛國的過失を改めなければ、大和民族の信用を恢復することは出來ず、之を改革せざる限りは、國利民福を進める事は出來ない。

筆の序に、近來續々外遊する官民幾群の男女老若に警告せん「諸君願はくは虛僞の競進會を開いて、此上大和民族の信用を失墜すること勿れ。」「旅の恥はかき捨」「旅の虛僞は吐き放題」と思ふのは、宜しくない。

英人の良心、ヘスチングの彈劾

英國にて、バークが、印度併略の大功臣たるワーレン・ヘスチングを彈劾したのは、今より百三十餘年以前の事だ。若し我邦にヘスチングの如き侵略的大功臣があるならば、決して之を彈劾する氣遣ひはない。其功は、其罪を贖うて餘りありと稱へ、上下擧つて、之を崇拜するに相違ない。然るに英人の良心は、百三十餘年前に於てすら、之を看過することが出來ず、一世の名士が、心血を灑いで之を彈劾すれば、一般人民も、亦之に響應した。一事を見ても、彼等の良心の發達の程度が判る。我が邦では、今日と雖も、尙ほ侵略的功臣の罪惡は、之を辯護隱蔽するを以て、愛國者の義務と心得てゐるものが多いやうだ。

一〇節　國家成立及び衰亡の徑路

凡そ生物は、其植物たると動物たるとを問はず、皆な死を怖れる本質を持つてゐる。動物は時あつて、死を歡迎するが如き擧動を爲すこともあるが、それは、一時の感情の爲めに、其本能

を失つた時か、或は生きる目的を達する爲めに、死力を盡すといふ逆手を打つ時に過ぎない。殊に人類に至つては、生存慾は、他の動物以上に強い。

人類が、安全に生存するためには、孤立するより團結する方が、其目的を達し易い。野蠻時代には、交通が不便で、人智も淺いから、其團結は、白から狹小ならざるを得ない。是に於て酋長を戴く所の部落的團結が起る。

酋長の下に部落的團結

其後、人智がやゝ進み、交通もやゝ便利になれば、酋長の勢力範圍も、段々擴大して、遂に諸侯の如きものが興り、中には國王と稱する者も生ずる。其勢力範圍は、餘り廣くはないが、併し之れに服從せずに孤立してゐては、生存慾を全くする事は、出來ない。故に安全維持の必要上、住民は、皆な諸侯若しくは小國王の配下に集つて團結する。

封建的團結

其後、人智が益々進み、交通が愈々便利になれば、其團結範圍は次第に廣大になり、遂に天然の區域に從つて、國家を組織するやうになる。住民の安全と生存の爲めには、國家が最も有效な働きをなすからである。

國家的團結

右各種の團結は、團衆各自の希望に由つて起る事もあり、英雄豪傑の征伏力に據て起る事もある。其起源の何れに在るを問はず、團衆多數の生存的本能、卽ち安全慾を滿足させない限りは、其團結は、長く存續する事が出來ない。酋長を戴く部落的團結でも、王侯を戴く封建的若くは國家的團結でも、其點に於ては、粗ほ異なる所はない。古今內外の歷史に就て、興亡の迹を案ずれば、何人も右の結論に到着するであらう。

民衆は安全を與へるものに服從する

是れを我が國の歷史に徵すれば、中古王政弛緩して、盜賊四方に起つたころは、寧ろ朝廷の土地人民を侵略する所の豪族に服從した方が、比較的多く生存慾を滿足せしむる事が出來た。源平以後德川の末に到るまで、七百五十年間は、斯の事實を證明する所の歷史である。

心を平らかにして此の七百五十年間の歷史を、靜觀する時は、系統が如何に正しくとも、順逆が如何に轉倒しても、多數人民は、生命財產に安全を與ふる方に歸屬する事が、解かるであらう。朝廷が之を與へれば、固より朝廷に服從して、奪掠者に反對するが、奪掠者の方が、多く之れを與へれば、朝廷を離れて、之れに服從する。文化が低く、順逆の道理が解らないのも、其一大原因ではあるが、よし多少それが解つても、尙ほより多く安全を與へる方に歸服する。是れは、生存慾の旺盛な人類の性情と見なければならぬ。理窟を離れて、事の眞相を觀破する事

民衆に與へる安全の有無多少に因て國家の存亡が定まる

が、政治家に取つては必要だ。

斯くて酋長も、諸侯も、國家も、其成立の最大目的は、住民の安全を與ふるにあるのだ。故に時勢の變化に依つて、與へる安全の分量が減縮すれば、從つて分解作用が起る。諸侯の方が酋長より多くの安全を與ふれば、酋長は亡びて、封建時代が顯はれ、統一したる國家の方が、國内が數百に分れて互に相ひ攻伐するより、多くの安全を與へれば、諸侯は滅亡して、統一した國家が興る。若し此國家が、誤つて其人民に生命財産の安全を與へる事が少なくなれば、國家的團結も漸次弛んで、其信用と威力を失墜する。近年崩潰したドイツ、ロシア、墺匈帝國の如きは、大戰亂を捲き起し、其人民に非常の不幸を與へたゝめ、之が中心勢力であつた所の皇帝は、廢位又は虐殺の悲運に遭遇した。もし君主を戴いた方が、人民の生命財産に對する安全率が多いと見れば、戰爭終結後も、依然として君主國として繼續したに相違ない。共和制より、國主制の方に安全率が多ければ、決して既往の歴皮を抹殺して、共和政體になる氣遣ひはない。タトへなつても、君主制が早晩必ず復活する。復活しないのは安全率が少ないからだ。

准后親房卿は神皇正統記廢帝の條と後嵯峨院の條に於て、右の事由を左の如き言葉で言ひ現はしてゐる。言葉は異つても、意味には大した相違はないと思はれる。

北畠親房卿の意見

（廢帝の條）　頼朝勳功は、昔より類なき程なれど、偏に天下を掌にせしかば、君としてやすからず思し召しけるも理なり。況やその跡絶えて、後室の尼公陪臣の義時が、世になりぬれば、かれの跡を削りて、御心のまゝにせらるべしと云ふも、一往のいひなきにあらず。然れ共白河鳥羽の御代のころより、政道の古き姿やう〳〵衰へ、後白河の御時、兵革起りて、姦臣世を亂り、天下の民、殆んど塗炭に落ちにき。頼朝一臂を振ひて、その亂を平げたり、王室は古きにかへるまでなかりしかど、九重の塵もをさまり、萬民の肩もやすまりぬ。上下堵をやすくし、東より西よりその德に服せしかば、實朝なくなりても、背く者ありとは聞えず。これにまさる程の德政なくして、いかでたやすく覆へさるべき。たとひ又失はれぬべくとも、民やすかるまじくは、上天よもくみし給はじ。（中略）

後室その跡を計らひ、義時久しく彼が權をとりて、人望に背かざりしかば、下には未だ疵ありといふべからず。一往のいはれ計にて追討せられんは、上の御料とや申すべき。謀叛起したる朝敵の利を得たるには、比量せられがたし、かかれば時の至らず、天のゆるさぬ事は疑ひなし、但下の上を剋するは極めたる非道なり、終にはなどか皇化にまつろはざるべき。先づ誠の德政を行はれ、朝威をたて、かれを剋する計の道ありて、その上の事とぞ覺え侍る。且は世の治亂の姿をも、能くかゞみしらせ給ひて、私の御心なくば、干戈を動かさるゝか、弓矢を治めらるゝか、天の命に任せ、人の望に隨はせ給ふべかりし事にや。（以下略す）

用語は異なれど趣意は卑見と同一

（後嵯峨院の條）凡保元平治より以來の亂りがはしさに、頼朝と云ふ人もなく、泰時と云ふものもなからましかば、日本國の人民いかゞなりなまし。このいはれをよく知らぬ人は、故もなく皇威の衰へ、武備のかちにけると思へるは誤りなり。所々に申し侍る事なれど、天日嗣は御讓に任せ、正統に歸らせ給ふによりて、用意あるべき事の侍るなり。神は人を安くするを本誓とす。天下の萬民は、皆神物なり。君は尊くましませど、一人を樂しましめ、萬民を苦しむる事は、天も許さず、神もさいはひせぬいはれなれば、政の可否に隨ひて、御運の通塞あるべしとぞ覺え侍る。

國家が大戰亂の原因

世界大戰爭は、人類に非常な不利益を與へたに相違ないが、開戰の本源を尋ぬれば、「國家」が、あつて、而も其國家が無智不德の野心家に支配せられてゐた爲めである。若し歐洲列國が、幾多の國家に分れて居らず、北米合衆國の如き聯邦であつたなら、想ふにあの大戰爭は、起らなかつたらう。些細の事件の爲めに、あの大戰亂を捲き起したのは、畢竟國家があつて、其支配階級が權謀術數を弄し、各自の國民を欺いたからだ。

其事實は、近來續々公表される所の文書が、之を證明してゐる。エミール、ラドヰグ氏の「一九一四年七月」と題せる近著の如きも、列國の公文書に據て、詐僞欺瞞の事實を證明し、且つ該戰爭の無根據無意味なりし事實をも列擧してゐる。

アメリカ合衆國には、英、佛、獨、墺、伊、露の人間が、雜然として群集してゐるが、其本國人が、互に惡魔の如く殺し合つてゐる時でも、仲よく暮してゐた。然らば、戰ふのは、個人ではなくして、國家である。同一民族でも、所屬の國家が異へば、仇敵となつて互に殺し合ふと同時に、異民族でも、同一國家の下に住めば、調和融合して、和氣藹々の裏に暮せるのである。國家なるものゝ魔力も、亦大なりと云はざるを得ない。

世界大戰爭は國家成立の目的に對して正反對の結果を生じた

然し此魔力も濫用する毎に減衰し、遂には消滅することを知らなければならぬ。

元來生命財産の安全を求めるために、國家を組織してゐながら、却て國家があるために、あの大戰亂を捲き起し、三千萬の人類を殺傷し、幾千億の財産を灰燼に附した。卽ち國家成立の目的に對しては、正反對の結果を生じたのである。かういふ事が屢々起れば、昔し酋長配下の住民が、之を捨てて、一國を組織したと同じ徑路を踐んで、人民に不幸を與ふる所の國家を離れて、別に安全を求むるやうになる。國家は、何を爲しても、又何時までも存在するものと思ふのは間違ひだ。現に歐洲聯邦と云ふ聲が、學者の手を離れて、將に政治家の手に移らむとするのは、其曙光の閃きと見て好からう。

歐洲聯邦論は其曙光

一時は神佛の如く尊崇せられた皇帝も、其人民に生命財産の安全を與へる分量が少なくなれば、獨、露、墺匈の君主の如く放逐若くは虐殺される。國家に對しては、人類は皇帝に對するほどの宗教的信仰を持つてゐない。故に國家が、其人民の安全慾生存慾を滿足させないやうになれば、存立の根據は、勢ひ一層薄弱に赴かざるを得ない。

國家維持の無缺

原則としては、國家は人民の要求を滿足させる間は、存立し、させなくなれば、潰崩すべきものであらう。故に長く國家を維持せん欲する者は、常に人民の要求を察し、之を滿足させるやう務めなければならぬ。正確なる根據もないのに、多大の軍備を設けて、人民の負擔を增加するが如き、又其必要もないのに他國と開戰するが如きは、何れも民心をして、國家を厭忌せしむるに至るべき方法だ。

現に米國は、移民を排斥するにも拘はらす、其本國を捨てゝ、之に歸化する者が多いのは、何よりの證據であらう。

第十三章　第三海軍制限會議

一節　稀有の好機會

空前の好機會

遠からず英國に開かれる第三海軍制限會議は、ゼネヴに於ける第二海軍制限會議失敗の後を受けたのだから、英米兩國政府は、尋常以上の注意を以て、總ての準備を整へ、成功を期する覺悟がなければならぬ。

其上、一方の立役者たる英國首相マクドナルド氏は、先般の大戰爭に際しては、位地も身命も投げ出して、平生の持論を固執したほどの平和主義者であり、又先年勞働黨內閣の成立するや、直ちにシンガポールの軍港築造を中止したほどの實行家でもある。

他方の立役者たる米國大統領フーヴー氏は、其就任後直ちに豫定の軍艦製造を中止した位の軍縮熱心家である。軍縮の主動者としては、英米とも之れほど好い役者の揃ふ事は珍らしい。加之ならず、前回の失敗に懲りて、今度は、兩國の間に、豫備會議を開き、各種の協定をなし、

大體だけは、粗ぼ纏つたやうだ。前後の形成と云ひ、申分のない狀況の下に開かれても、尙ほ失敗に終るが如きことあらば、軍縮の前途は、實に暗澹たるものとなるであらう。

軍縮成否の根本

元來戰爭の可能性を信ずればこそ、艦種砲型等に付て、種々の意見も出るなれ、平和の可能性を信ずれば、此等の問題は、起らない筈だ。たとへ起つても、其重要性は、大に減小する筈だ。軍縮の成否は、之を取扱ふ主要人物が、平和の可能性を信ずるか、將た戰爭の可能性を信ずるかに依て、定まるのだ。而して英米兩國の首腦者は、平和の可能性を信じてゐるやうだ。若しさうでなければ、之れまで世間に傳へられし豫備交渉の如きも、餘り大切なものとは思はれない。

英米間に戰爭の可能性があるなら他國の間には尙更らあるべき筈

同文、同人種、同風俗、同習慣の英米兩國間に於てすら、近き將來に戰爭の可能性ありと信ずるが如き精神狀態では、到底軍縮の目的を達する事は、不可能と諦めるより外はない。英米間にすら、戰爭の可能性があるなら、佛曼間や、英佛間や、佛伊間や、英伊間や、日米間には、尙更らそれを豫想しなければならぬ。故に軍備縮小會議に臨む前には、先づ此等の豫想と猜疑心を一掃する必要がある。

虛心平氣に考へれば、今日の國際關係に於て、たとへどれだけの衝突が起らうとも、之を戰爭に訴へて、先般の如き大災害を繰返す事の愚なるは、何人と雖も、之を理解すべき筈だ。戰爭の慘禍に較べれば、平和的苦痛は、幾らでも忍べるわけだ。此の見地に立て、日英米の海軍關係を協定せんとすれば、其方法は、そんなに困難な事でもない。

二節　海軍縮小の方法

海軍縮小に關する方案

第一、現狀を根據として、三國共に同じ割合で減縮する事。例へば、半減又は三分一減の如し。

第二、先年の華府會議當時の狀態を根據とし、其後新たに增加した噸數、及び擴大した砲型の如きは、一切之を廢棄し、更に前述の割合で減小する事。

第三、巡洋艦以下に對しても、華府會議の際、主力艦に對して爲せる十年間海軍休日の約束を適用する事。

第四、列國の現狀如何を問はず、主力艦に規定したる五、五、三の比率を、巡洋艦以下にも

適用して、更に減小する事。

第五、戰鬪艦は、漸次之を廢止する目的を以て、差當り猶ほ五ヶ年乃至十ヶ年間、其補充を延期する事。

第六、潛航艇は之を全廢する事。

此六つの方法は、何れも、最も平凡なると同時に、最も常識的なものである。眞に世界の平和を希望する心があるなら、何れとして採用出來ない筈はない。

列國三線の報復

（第一案の説明）　海軍勢力の現狀を生じた徑路に就ては、列國とも種々異つた根據があらう。華府會議の精神に基いて、其後、軍艦製造を中止してゐた國もあらう。又全く中止するまでには行かずとも、出來るだけ差控へてゐた國もあらう。又巡洋艦以下には、何等の制限も成立しなかつたのに乘じて、盛んに新艦を製造した國もあらう。それ等は國々の位地、形勢、財政、及び其他の事由から起つた結果であつて、其當否善惡は、容易に判斷し難い。

列國共に多くは、財政經濟の困窮に苦んでゐるにも拘はらず、多大の經費を擲つて、軍艦を建造するには、それ相當の理由があつたに相違ない。又製艦を休止してゐる方には、之を休止しても差支がないと云ふ國家的安心があるに相違ない。兎に角、世界各國の現在の海軍勢力は、全く無意味のものと云ふ事は出來ぬ。現狀を生じたに付ては、それ〴〵相當の根據があるに相違ない。此に於て、現狀維持は、何れの場合に於ても、相當の論據となり得べき性質を持つてゐる。

現狀維持には強い根據がある

次の海軍縮小會議に於ては、海軍の尺度とか勢力對等の基礎とか云ふが如き煩雜な問題に入らず、現勢力を根據として、列國共に之を半減するのは、尤も出來易い常識的方法であらう。長い海岸線を持つてゐるものは、半減しては到底防禦が出來ないとか、或は糧食供給の途が絶えるとか云ふが如きは、何れも近き將來に戰爭を豫想した意見である。のみならず、それにしても大した根據のあるものではない。何れの場合に於ても、軍備は、相對的のものであるから、其對手國と同じ比例で減縮すれば、どれだけ減縮しても、別段危險はない筈だ。對手國と同率でない場合に於てすら現在は危險はない。その證據には佛伊の如きは、海岸線は可成り多く持つてゐるが、其海軍力は、極めて薄弱だ。それでも尙ほ五大强國の一として、世界に立つてゐる事が出來る。これは武力のお蔭ではなく、道理のお蔭である。力の世の中が、今日は變じて、

佛伊の海岸線は長く海軍力は弱いが何所からも侵されはしない

道理の世の中になつたためだ。今日の世界では、無理さへしなければ、軍備は、薄弱でも、枕を高うして眠る事が出來る。軍備がなければ、何時侵略せらるゝかも分らないが如き武力時代は、既に過去の一夢となつて了つたのである。

（第二案の説明）　華府會議後晩くとも十年目には、再び海軍軍縮會議が開かれる事を豫想しながら、又軍縮は列國の利益である事を熟知しながら、又主力艦に就ては、十年間補充せぬと云ふ約束をして置きながら、巡洋艦以下を補充し擴張するのは、條約の明文には違背しないが、其精神に違背した振舞である。

其目的が他國以上に縮小するに在らば擴張も亦一時の好權道

然し、擴張の目的が來るべき軍縮會議に於て、他國以上に縮小して、高壓的に他を强制するにあるならば、則ちキルソン大統領の如く、之を梃子とする決心があるならば、一時の權道として、許容する事が來る。もしさうではなく、其目的が他國が正直に華府會議の精神を遵守する其虛に乘じて、自國の海軍力を增加するに在るならば、餘り立派な擧動と云ふことは出來にくい。

兎に角華府會議の際、保有してゐた勢力以上に增加した噸數と擴大した砲型とは、列國共に之を削るのが、當然のやり方であらう。增加した噸數だけは、老朽艦を廢して之を削り、比較的新しいものだけ保存して置けば、艦艇維持の經費に於ても、大に助かるだらう。これも軍備縮小の誠意があれば、何處の國にでも出來る方法である。

「大金を費して、折角、擴張したものを、今更ら減縮せよとは、無理だ」と云ふものがあるなら、「華府會議に際し、米國の爲した實例を見よ」と答へよう。拜金宗の米國すら、爲し得たことを、他國が爲し得ないとあつては、其面目にも關はるではない乎。我が國人は、平生の廣言に對しても、こんな時こそ、立派な言行を爲し、以て民族の聲譽を發揚すべきであらう。此一擧は我が帝國を安全にすること、恐らくは二三十萬噸の海軍力を增加する以上に有效だらう。

補助艦にも主力艦同樣の海軍休課を適用すべし

（第三案の説明）　もし、減らす事の相談が纏まらなければ、今後十年間補充せぬ事、卽ち巡洋艦驅逐艦に對しても、大戰鬪艦に對してゐたと同樣の約束を爲すべきである。主力艦に對してすら、十年間補充を見合せた。補助艦に對して、それが出來ない筈はない。又何れの國に取つても、それが不利になるべき道理もない。

然し、老朽艦を維持する如きは、全く無用の失費であるから、適當の約束を以て、何年以上

補助艦にも戰鬪艦の比率を適用すべし

の船艦は、悉く廢止する事にすれば尙ほ宜しい。

（第四案の說明）　戰鬪艦を以て、海軍の主力となし、所謂る八八艦隊なるものを完成するのが、華府會議以前に於ける日本海軍の方針であつた。然るに該會議の結果として、新艦は長門陸奧の二隻に止め、旣定計畫中の六隻を廢止した。八八艦隊は、戰鬪單位で、之がなければ、戰爭が出來ないなどと云つた人々の意見は、根柢から破壞されて了つた。それでも、海軍當局は、戰爭が出來ないとは謂はぬであらう。故に彼等の主張は、單に隻數を殖したい爲になしただけのものであつて、確たる論據があるのではない。

兎に角、主力艦を英米の五十餘萬噸に對し、吾が三十餘萬噸に制限し、それで辛抱が出來るなら、補助となるべき巡洋艦以下をも、之に準據して定めるのが至當であらう。之れが常識判斷であり、人生普通の條理である。

もし此常識判斷を根據として、談判交涉を進めれば必ず纏まるべき可能性がある。强て之に反對する者あらば、それは其者の無理であらう。

日英米の比率を五、五、三と決定し、而して華府會議以後新艦を建造しなかつた國、則ち補助艦の最も少ない國を標準として減縮すれば、軍縮の精神を遵守したものは、經濟上に利益を受け、之に違背したものは、損をする事になる。之は將來の國際關係に好模範を示す働きであつて、經濟的には損をしても道德的には得る所が多い。予は日本が、此提議を爲して、我が道德的聲價を宣揚せんことを希望する。「花より團子」と云ふが如き擧動は、最早や今日の國際交涉には適合しない。況んや軍艦を增せば、增すほど、我が財政經濟の困難は、增加するばかりであるに於てをや。日本現在の困難は、外敵に在らずして、經濟的破綻に在ることを忘れてはならぬ。

新艦製造の最も少なかつた國を標準とすべし

（第五案の說明）　右四案の中、何れが行はれても、列國の幸福であり、世界の平和は、それがために幾分の進步をなすが、更に此場合に於て、序に結末を付けたいのは、華府會議の協定である。前の會議は主力艦の關する限り、十年間、補充を見合せる事に約束したが、其期限は、遠からず終了する。そのため、改めて會議を開くよりか、此際に、其後始末を付けた方がよろしい。其方法としては、結局は戰艦を廢止する見込を以て、將來補充せぬ事にきめたいのである。

主力艦は結局廢止すべし

若しそれが纏まらなければ、差當り海軍休日を更らに五年乃至十年間延期するが好い。苟も不戰條約の趣意に從つて、軍縮會議を開く以上は、戰鬪艦の如きは、結局之を廢止するのが、當然である。我が國に取つて、最も都合の良い事は、之がため大に經費を節約し、經濟立直しを援助する事が出來る。

潜航艇は直接に戰爭の用を爲さず

且つ主力艦を維持すれば、五、五、三の比率であるが、廢止すれば、英米と對等になる。大金を使つて六割の勢力を維持するよりも、金を使はずに、對等になる方が、國家の體面から見ても、又其安全から見ても利益である。彼の十に對し、吾の六を以て、國防上、安心が出來るなら、彼我共に無しで對等である方が、一層安全だ。然るに吾海軍當局者中には、主力艦廢止に反對する者があるさうだ。彼等は、なぜ對等が嫌ひで、六割に滿足するのか。彼等は、國家を思ふよりは、寧ろ自家の職業的繁昌を希望する者であると謂れても、辯解の言葉がなからう。

（第六案の說明）　先般の大戰爭の經驗に徵すれば、潜航艇は、商船破壞のためには、大に働いたが、軍艦攻擊には、一向役に立たなかつた。直接に戰鬪の役に立たない潜航艇を廢止する事は、軍人氣質から見ても、又常識から見ても、相當の處置と云はねばならぬ。殊に吾國の如きは、戰鬪艦巡洋艦等が、殆んど全滅しない限りは、遠き英米の軍艦が、吾近海に來る憂はない。從つて潜航艇は、商船破壞の蠻行を爲す外、全く使用の途はない筈だ。海軍當局者が、其廢止に反對するのは、何の意味か理解する事が出來ない。

三節　軍人心理

國家的見地より軍事を論ずる軍人は少なし

歐米の陸海軍人中には、國家の大局を觀察して、其縮小論を爲す者が、可なりある。自分の職業以外、何物も見る事の出來ない軍人も、澤山あるが、さうでない人もある。然るに吾國の軍人は、自分の擔當內の擴張ばかり考へてゐる。從つて海軍軍人は、常に海軍の擴張を主張し、陸軍軍人は常に陸軍の擴張を主張する。國家的見地よりして、陸海軍の縮小を唱へるものは、幾んどない。畢竟、其眼界が、尙ほ狹く、國家全體の利害を綜覽する事が、出來ない爲だらう。

四圍の形勢の變化に依ては、陸軍よりは海軍の方が、必要な時もあり、又海軍よりは陸軍の方が、大切な時もある。さういふ場合には、陸軍軍人と雖も、寧ろ陸軍を縮小して、海軍を擴

張せよと主張し、反對の場合には、海軍軍人も、亦海軍を縮小して、陸軍を擴張せよと主張する事もあるべき筈だ。

若し夫れ海にも陸にも、敵がない時は、對外的軍備は、海軍たると陸軍たるを問はず、之を存置する必要はなくなる筈だ。是に於いて陸海軍人は、何れの國に於ても常に敵がある樣に流布宣傳し、甚しきに至つては、無理に敵を作り出す事もある。それが爲め害毒を國家生民に及ぼすこと淺少ではない。實際は敵を作り出すまでに至らずとも、敵があるやうに宣傳し、假想敵を作つて、對抗演習などを行へば、列國間の猜疑心は、益々募るばかりである。左もなくば仲好く交親して行ける國際關係も、そのため破綻を生ずる事が多い。之れが、世界の平和を亂る一つの大原因である。自分の商賣を繁昌させるために、敵でもないものを、無理に敵にするのは、非愛國的所業であるが、軍人生活をするものは、知らず〳〵斯かる病氣に罹り易い。恰度競馬のために、育てられた馬は、馬さへ見れば、直に驅け出し、鬪犬として養育された犬は、犬さへ見れば、すぐに嚙み付くと同じ樣なものだ。馬や犬の場合には、大した禍害もないが、軍人の場合には、それがために、世界の大亂を釀す事もある。深く注意戒愼すべきことだ。

軍人は敵なきに敵を作り出すことがある

立派な人物でも久しく軍部に居れば一種の性癖を生ずる

されば軍縮會議に際し、爭鬪的に養育された軍人を、其衝に當らせるのは、其目的を破壞する役には立つが、之を成就せしむる役には立たない。殷鑑遠からず彼の壽府會議に在り。

ワシントン會議の時は、加藤海軍大將、ゼネヴ會議の際は、齋藤海軍大將を以てし、今回の第三海軍制限會議には珍らしくも文官を首席全權に奏薦したが、穩順にして妥協性に富める若槻氏は、多分海軍專門家の意見に聽從するだらう。其結果は、大所高所より、國家の利害榮辱を考察せずして、只だ海軍と云ふ一小局部よりの觀察判斷に伏從する事になり易い。

加藤全權は、後に總理大臣となつた人だけあつて、他の軍人と違ひ、國家全體を大觀する力を持つてゐたから、部下の將校連が、飽くまで七割論を主張した時などは、一喝して之を排斥し、斷然六割論に同意した。若槻氏にそれが出來るか否やは、疑問である。日本は、經濟上最も軍縮を必要とする位置にありながら、佛伊が多少の異議を唱へるをよい幸として、之に雷同し、軍縮の邪魔をする事にでもなれば、實に由々しき大事である。海軍が、七割であらうが、八割であらうが、國家が破產狀態に陷れば、攻防共に之を用うる事は出來ない。

軍人として、常に戰爭を豫想し、何時開戰しても、負けないだけの準備を必要と考へるのは

日本に取ては經濟立直しが最も必要

無理もないが、政治家は、より以上の高所大所に立つて、和戰の鍵を握らねばならぬ。國難が軍備より來らずして、經濟や政治や思想等より來る所の今日に於ては、軍事は、第二、第三の問題として、之に善處しなければならぬ。今回の大任は、若槻氏が將來の難局を擔當する政治家的力量あるや否やの試金石である。

若槻氏の試金石

四節　海軍當局者の自縄自縛

軍人は、その海軍たると陸軍たるとを問はず、自己の職業範圍を擴張せんとする熱心より、動もすれば對手國の軍備を、過大に鼓吹し、自國のそれを過小に吹聽する癖がある。

現にワシントン會議に方ても、其證據が現はれる。海軍省が毎年提出する參考書に據れば、大正九年末に於ける我海軍力は、英米の四割又は五割にも足らないやうに吹聽されて居つた。然るに一旦華府會議が開かれると、現狀を根據として、相談を進める必要を認めたものか、海軍當局者は、遽に其態度を一變し、我が現有勢力は、米國の七割に當る事を證明せんとして、各種の計表を作製し、盛んに之を流布宣傳した。海軍知識に缺乏せる吾が一般國民は、容易に之を信じた。從つて比率を、英米の六割と、決定した時は、我が國人は、實力以下に制限されたが如くに誤解し、或は全權の無能を痛嘆し、或は英米の横暴を憤慨した。

海軍當局者の流布宣傳が自己に災す

あんな僥倖は未來永劫二度と再び得られる氣遣ひのないほどの成績に對して、今日でも、尚ほ華府會議の失敗を口にするものが多い。これは吾海軍當局者が七割の比率を得たい餘り、現勢力を誇大に吹聽しすぎた結果であつて、所謂る身から出た錆だ。

事實に於て、米國は老朽艦と未製艦と合せて八十餘萬噸を廢棄し、吾は其半分即ち四十餘萬噸を廢棄して、米は五十餘萬噸、我は三十餘萬噸となつたのだ。故に若し日米共に之を廢棄せずして、製艦競爭を繼續したなら、吾の益々劣勢となる事は、火を睹るよりも明かだ。先方が二倍壞してすら、尚ほ六割に過ぎないではないか乎。然るに我が海軍當局者が、餘り熱心に七割說を主張して、全國民を盲從させたため、豫期以上の好結果を得たにも拘はらず、尚ほ之を失敗と考へ、吾が全權に對して、非難の聲が起つた。其責任は、無論吾が海軍にあるのだ。

前回の失敗にも懲りず、海軍當局者は、又ぞろ巡洋艦以下の補助艦は、英米の七割以上ある事を流布宣傳してゐるが、餘り力を入れすぎると、現在の事實を基礎として、進む所の協議會

再び既往の過失を繰返す

は、當局者の主張通りに纏まらぬかも知れない。萬一協議が纏らずして、談判不調に終る時は、吾國は、國防的にも、經濟的にも、非常な窮境に陥る事になる。而して其責任は、主として海軍當局者が、負擔せねばならぬ。こんな事も少しは考へて置くがよからう。

軍費を節して經濟を救はねばならぬ

單に軍備充實の點だけから考へれば、七割は六割より、よいに違ひないが、經濟上から見れば、之がため多額の費用を要する事になる。而して日本現在の危險は、軍事に在らずして、經濟にあるのだから、眞に國家を思ふ者は、軍費を節して、經濟を救はねばならぬ。又主力艦すら、六割で滿足してる日本が、補助艦に七割を主張して、それがため多大の資金を費すのは、國家の損害でこそあれ、利益にはならない。

併し戰鬪以外には、他の國事を考慮する餘裕のない帝國軍人としては、國家の窮狀をも省みず、海軍だけに、成るべく多くの經費を使用したく思ふのは、無理もない。軍人ならざる一般公衆は、軍事以外の國務をも、少しは顧慮せなければならぬ。國防の充實も、必要だが、經濟的破壞を救ふのは、尙更ら必要だ。國家の經濟が破綻すれば、國防を充實する事は、絶對に出來なくなる。又軍用金がなければ、軍備を活用する事も出來ない。こんな自明の事實を無視して、盛んに補助艦七割說を主張するのは、畢竟、ワシントン會議に於ける自繩自縛の覆轍を踐まんと欲するものである。

總歲出に特別會計までも加算

吾が海軍當局者が、如何に盲目的に海軍擴張に熱心なるかは、其年々議會に呈出する參考書を一見すれば、直ぐ分る。該書中には、熱心の餘り無理なる計算を揭げで、世間を瞞着せんとするものが少なくない。例へば總歲出と軍備費とを比較するに方り、我が總歲出中には、特別會計までも包含せしめてある、吾國の如く、政府が各種の事業を經營し、之を特別會計に立て置く國と、大抵の事は皆な民業に任せて置く國とを比較するに當つて、特別會計までも歲出中に合算する時は、そこに非常な相違が生ずる。此相違を無視して、總歲出の何割と稱へ、以て吾が軍事費が、他の列國に比して、餘り過大ならざるが如く見せるのは、餘りと謂へば、無理なやり方だ。

平生は我が海軍力を過少に報告し縮小會議の時は過大に吹聽す

又、平生は、何時でも英米に比して、我が海軍勢力は、過小なるが如き計數を示して置きながら、いざ軍縮會議となれば、七割以上を主張する。これも自繩自縛の結果を招ぐべき遣り方だ。

一般公衆は、こんな無理な計算をも鵜呑みにして、海軍の主張に雷同するが、國際會議に於いては、無理な主張は、中々通りにくい。通らない時は、一般公衆の不滿を招く。海軍當局者は、ワシントン會議に於て、苦い經驗を嘗めたにも拘はらず、今尙ほその誤まてる流儀を改めない。他日、再び國論の不滿を買つて、大に困る事があるだらう。

これは、倫敦會議に際して、海軍當局者は勿論の事、一般公衆も、一應心得て置べく事柄である。

會議不調のため最も喜ぶものは米國の擴張論者

五節　若槪全權に望む

やがて英京に、催ほさるべき海軍會議ほど、有望な狀況の下に開かれるものはなからう。然し佛伊などが、區々たる自負心のために、之を妨碍し、日本が之に附加するやうな事があれば、最も望み多き狀況の下に開かれたる此會議も、遂に或は不調に終るかも知れない。其結果最も喜ぶものは、米國の軍擴論者であらう、彼等は、世界第一の海軍國と云ふ多年の夢想を實現する事が出來る。

四十億圓の海軍擴張計畫

之に反して、佛國の如きは、陸には獨逸に備へ、海には英に備へ、以て擴張競爭に應じなければならぬ。左なきだに國力疲弊し、平價の八分の一を以て、僅かに爲替相場を安定し得たほどの經濟狀態は、愈々困難に赴く事は、必然の勢ひである。

其怨敵たる獨逸は、幸か不幸か、平和條約に由つて、其軍備を制限されてゐるから、其方面に使用すべき資金は、凡て之を生產的及び文化的方面に使用する事が出來る。此の如くして、獨逸は隆々として復興し、佛國は軍事費の重荷に堪へずして、疲憊困弊す。兩國前途の優劣勝敗は、鏡にかけて見るよりも分明だ。そして歐洲平和の基礎は、再び動搖し、如何なる慘禍を現出せんも、計り難い狀況が生れるだらう。

然し、それは他國の事であり、而も遠き歐洲の事であるから、姑く忍び得べしとするも、其ため、我が帝國に及ぼす影響に至ては、實に寒心すべきものがある。

現に米國の軍事當局者は、ゼネヴ會議失敗後、四十億圓の海軍擴張計畫を立てたさうだ。それが再三削減され、遂に十六艘案となつて、議會を通過した。フーヴー大統領は、現在其著手を延期せしめてゐるが、英京會議が失敗に終れば、其建造に著手させるより外に仕方がな

からう。それだけでも、我が海軍當局者は、袖手傍觀してゐるわけには行くまいと思はれるが、其後ろには、尙ほ海軍卿の原案たる十四億八千萬圓、七十一隻計畫があり、其又後ろには軍事當局者の四十億圓案もあると云ふことだ。

加何に金が有り餘つても、右等の大擴張は、米國の輿論が許すまいとは思ふが、英國が之に應戰すれば、競爭熱の激する所、どこまで行くか豫知する事は出來ない。而して我國人は、勢ひ、競爭渦中に飛び込まざるを得ざる心理狀態に在る。先年無謀にも八八艦隊案を立て、議會が之に贊成して、財政の破綻を招かんとしたのは何よりの例證だ。

萬一そんな事になれば、我が經濟財政は、破滅の外はあるまい。故に來るべき倫敦會議の成敗は、我が安危の分れ目である。

今回の軍縮會議の成敗は我が國安危の分岐點

華府會議が、失敗に終つたなら、我が國は、今ごろは、海軍のために毎年少くとも七八億圓費さなければ、五割の比率も維持するわけには行かなくなつてゐたであらう。それは分明に我財政的破滅である。

華府會議に由て、一たび救はれたる我が經濟狀態は、倫敦會議に由て、再び救はれるだらう乎。英京會議の重要性は、軍事よりも、寧ろ財政經濟に在るのだ。否な世界の治亂の分岐點となる事に在るのだ。若槻全權が、もし之を理解すれば、國家のために其任務を盡す事が出來やうが、もし其根本義を誤つて、單に軍事會議と誤想して、之に臨めば、必ず失敗のお土產を齎らすだらう。

軍事も重要なる國務の一つではあるが、其總てではない。英京會議は、表面は海軍の協定制限を目的とするが、それは表面だけの事であつて、事實は、それよりも數倍重要な意味が籠つてゐる。

今回の會議は軍事よりも寧ろ經濟及び外交に重きを措かねばならぬ

今回の海軍會議に於ては、軍事的利害よりは、寧ろ經濟的及び外交的見地に重きを措かねばならぬ。英米兩國は、粗ぼ此意味を理解してゐるものと見え、各々首相を全權に任命した。我が國でも曾て總理大臣たりし若槻君を任命したのは甚だ好い。只心配なのは、氏が其使命を正解して居るや否やに在る。氏は極めて聰明だが、たゞ順吏的に目前を彌縫するだけで、大所高所より、國家の大計を斷定する事は、其長所ではないやうに見える。先年樞密院の毒計に罹つて、一とたまりもなく逃げ出した如きは、其例證と見て好からう。

其後既に三年近くも經たから、若槻君も大分修業したらう。「大丈夫三日見ざれば、目を刮つて見るべし」と云ふ事もあるから、氏も今日は吳下の舊阿蒙ではなからう。どうか今回の軍縮會議は、單なる軍事問題ではなく、國家の安危、世界の治亂の分岐點であることを看破して、それ相當に振舞はれたいものだ。其次第は、一と通り第五章に述べて置いたから、玆に繰返す必要はない。

内閣の再考を促すべし

然し、若槻君は、濱口内閣を代表して、會議に臨むのである、若し内閣が事體の眞相を辨へ單純なる軍事問題として、之を考慮するが如き事あらば、若槻君だけが、事體の眞相を看破し得ても、勝手に之に善處する事は出來まい。

本來は、君は全權を承諾する前に、全局に亙て、篤と國家内外の形勢を考慮し、閣議に誤謬があるならば、之を改正させて後ち、始めて受諾すべき筈であつたのだ、君は此當然の手續を取らなかつたやうに思はれる。殘念な事だ。

後からでも宜しい。親しく歐米の政治家に接觸して、事體の眞相を悟り得たなら、國家のため、忌憚なく其意見を電送して、内閣の再考を促すべきである。一黨の先輩、且つは前總理として、君の意見は、濱口内閣に對しては、相當に重きを爲すであらう。

六節　濱口内閣に警告（金輸出解禁とも關聯して考慮するを要す）

濱口内閣の失策

現内閣は、今回の會議を以て、單純なる海軍事項と見てゐるやうだ。未だ會議も開かれない前から、補助艦艇七割説などを大聲疾呼してゐる。少なくとも海軍當局者の宣傳を默認にしてゐる。是れは現内閣の大失策だ。もし英米の同意が得られなかつたら、旗を捲て引揚るつもりなのか。それとも、いざと云ふ場合には、讓歩するつもりなのか？　何れにしてもまづいではないか？

造艦費四五千萬圓と其持續費が增すだけ

當局者は、七割説が行はれるは成功のつもりであらうが、元來七割の比率を得れば、それが何の役に立つのか？　六割に比すれば、造艦費四五千萬圓と其持續費が增加するだけの事で、それ以外には、何の效果もないではないか？

華府會議の時にも、我が海軍當局者は、七割説を主張したが、遂に六割で承諾した。其結果、我が戰鬪艦は、保有噸數に於て、約五萬二千噸、其造費に於て、約一億三四千萬圓減少

した。爾後八年間の實驗に徵すれば、軍事も、外交も、之がため寸毫の不利不便を被らなかつたではないか？　結局、建造費と維持費が、節約されただけであつた。

今回の七割說も、詮じ來れば、同一の結果を生ずるに遙ひない。

海軍當局者は、今にも外國が攻めて〻も來さうな言行を爲すが、そんな雲行きが、世界何れの所にか見えるのか？　もしあるなら、之に對しては、軍備を整へるよりも、先づ外交手段を以て、戰因を排除する方が必要だ。我れ先づ刀劍に手を掛けて、先方の敵意を激發するのは、愚の至りである。

軍備力が劣ら有つても終局の勝は得られない

且つ戰爭は、海軍力だけでは、出來ない。軍用金も、必要なれば、工業力や、科學知識も、必要だ。必要物が、總て七割に達すれば、勝目があらうが、左もなければ、海軍力だけでは、七割は愚ろか、九割十割あつても、終局の勝を制する事は出來ない。

日露戰爭の時でも、軍用金が不足し、兌換制度も危殆に瀕し、僅かに英米資本家の好意に因つて、漸く危難を免れた次第は、當時、募債の衝に當つた高橋是清君が、東朝紙下に公表してゐるではない乎。（昭和四年十一月）

五割以下でも脅威されなかつた

戰鬪艦の比率は、對米六割でも、國防は安全だが、巡洋艦が、七割以下では、脅威を感ずると云ふものがある。其理由が一切分らない。華府會議以前には、我が海軍力の對米比率は、五割以下の時もあつたが、別に脅威されなかつたではない乎？　又そのため、外交上別段不利を受けた事實もなかつたではない乎？

且つ補助艦が、七割以下で、脅威を感ずるなら、國防の要素たる經濟力、工業力、科學知識等が、悉く七割以下なら、尙更ら脅威を感ずべき筈だ。之を感じないのは、軍事以外に、國務ある事を知らざる軍人的頭腦の所有者だけだらう。然し我が國にはこんな舊時代の軍國主義者が多いやうだ。

濱口首相は、元來、大藏省出身者であるから、少なくとも軍事と財政經濟の關係位は、一と通り理解して居るべき筈だ。今回の軍縮會議が、萬一不調に終るが如き事あらば、そのため、我が財界に及ぼすべき影響が、如何に深大なるべきかは、粗ぼ承知して居るべき筈だ。

經濟立直しの根本義

特に現內閣は、金の輸出解禁と、其善後策を以て、其使命と爲してゐるが、經濟立直しの根本は、冗費節約、負擔輕減、能率增進等に由て、國際貸借を改善するより外にはない。他は皆

な一時限りの枝葉末節に過ぎない。

繼續費總計の約半額は國防費

政府が緊縮し得べき不生産費中の最も巨額に上るものは、陸海軍費である。一般會計に屬する今後の繼續費二十餘億圓中、國防費と稱するものは、陸軍が五億圓、海軍が四億圓、ざつと半額を占めてゐる。

今日の所、我より仕掛けない限りは、日本を攻めるものはないから、之を費消しても、しなくつても、我が國防の安全率に變化は起らない。もし然らずと想ふ人あらば、彼の佛伊を見よ。其近傍に世界第一の海軍國を控へながら、我が國の半分にも足らない戰鬪艦を以て、泰然自若としてゐるではないか？

金解禁善後策の成否は懸つて軍縮の成否に在り

要するに、金輸解禁後に於ける善後策の成否は、懸つて軍縮の成否に在りと云つても好い位だ。而して其善後策が、旨く行はれなければ、我が經濟界は、非常の破綻を免れない。則ち現内閣の一枚看板は泥土の中に葬られるのである。

予は玆に切望する。濱口内閣は、大局より、國家の現象を考察して、英京會議に對する從來の方針を改め、徹底的に、我が陸海軍を縮小し、以て平和の天使となつて、列國を指導せん事を。

現内閣の執りつゝある所の態度は、公正なる人士の間には、何時でも、通用しないであらう。

七割論は、如何に巧妙に說ても、對手國は勿論の事、第三者をも承服せしめ得ないであらう。之を固執して會議を脫退すれば、經濟上に、又財政上に、非常の困難を招致する。左りとて提出後之を撤回しては、國家の名譽にも關係する。

自ら好んで進退兩難の位地に陷る

今日まで現内閣が、英京會議に對して執り來つた所の態度方針は、最眞目に見ても、非常な失計である。啻に事體の重大性を辨へざるのみならず、單純なる軍事問題としても、自ら好んで、進退兩難の位置に陷るべき遣り方である。餘り深入しない中に、早く豁然大悟して、其方針を改めないと、是れが恐くは金解禁の善後策と關聯して、内閣の致命傷となるであらう。

恐らくは國家の致命傷

内閣の致命傷位で濟めば、どうでも好いが、恐らくは國家の致命傷となるまでに發展するであらう。

昭和四年十二月十日印刷
昭和四年十二月十五日發行

時事問題講座 8

軍備制限

著者 尾崎行雄

發行者 鈴木利貞
東京市麴町區丸ノ内二ノ一八

印刷者 君島潔
東京市小石川區久堅町一〇八

印刷所 共同印刷株式會社
東京市小石川區久堅町一〇八

發行所 株式會社 日本評論社
東京・丸ノ内・昭和ビル 振替東京一六 電話丸ノ内(23)四一三一～四一三二 四一三三

時事問題講座

—全十二册—

第一回配本	1	金解禁	東京帝國大學教授 經濟學博士 土方成美著
次回配本	2	國債整理	大藏政務次官 法學博士 小川郷太郎著
	3	財政整理	前大藏政務次官 大口喜六著
第二回配本	4	關税と貿易	經濟學博士 太田正孝著
	5	國際貸借	東京朝日新聞主幹 經濟學博士 牧野輝智著
次回配本	6	地方財政	東京市助役 田中廣太郎著
	7	對支問題	法學博士 吉野作造著
第三回配本	8	軍備制限	尾崎行雄著
第一回配本	9	思想問題	土田杏村著
	10	農業と中小商工業	東京帝國大學教授 法學博士 河津暹著
第二回配本	11	失業問題	安部磯雄著
	12	經營合理化	法學博士 渡邊鐵藏著

終